柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

２０００年度

２００１年3月

柏原市教育委員会

はしがき

柏原市は、河内平野の南東部に位置し、市域の半分以上が山地や丘陵で占め、その間を縫って石川や大和川が流れる府下でも有数の風光明媚な緑が多い町となっている。近年、開発優先よりも環境保全や自然保護の気運も高まって、信貴生駒山系をはじめとする恵まれた「緑」、大和川・石川を豊かに流れる「水」といった自然環境を活かし、市民生活に「やすらぎ」とうるおいをもたらし、人と人のつながりや郷土愛に満ちた土地柄から「心のふれあい」を育みながら、市民とともに築く、多彩な豊かさと活力のある住みよい「魅力あるまち」の実現をめざしている。

本年の調査も市内遺跡の主要な遺跡群で遺構・遺物が検出され、新たな柏原市の歴史を埋める研究資料が出土した。その成果を報告するものである。最後に、調査及び報告書作成にあたり、関係各位にご理解とご協力を頂いたことに感謝すると共に今後ともご理解賜りますようお願い申し上げます。

平成13年３月

柏原市教育委員会
教育長　舟橋清光

例　　言

1．本書は、平成12年度に柏原市教育委員会が国庫補助事業（総額1,600,000円、国補助率　50％、市負担率50％）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。

2．発掘調査は、柏原市教育委員会社会教育課文化係北野　重を担当者とし、平成12年４月１日から平成13年３月31日に終了した。

3．本書には、平成12年１月５日から同年12月27日までに着手した土木工事に伴う事前発掘調査の内21件の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なお、この期間内に文化財保護法第57条－２および３に基づく届出・通知がなされたものは317件、その中で発掘調査を実施したものは34件、国庫補助として実施したものは22件である。

4．本書の編集と執筆は、北野が行った。

5．調査整理の参加者は下記のとおりである。

吉田　宏　　隱木　譲　　柳谷好子　　川端　隆　　安村俊史　　石田成年
寺川　款　　谷口京子　　奥野　清　　分才隆司　　堀　定夫　　阪口文子
槙原美智子　新田太加茂　冨田都子　　尾野絹恵　　尾野由希子　乃一敏恵
有江マスミ　松本和子　　山元允子　　橋口紀子

目　　次

第１章　調査の概要……1
　第１節　本年度の調査の概要……1
　第２節　近年５ヶ年の調査の概要……3
第２章　船橋遺跡……9
　船橋遺跡2000－２次調査……10
　船橋遺跡2000－４次調査……11
　船橋遺跡2000－５次調査……12
第３章　山ノ井遺跡・平野遺跡・平野廃寺・大県遺跡・大県南遺跡……13
　山ノ井遺跡2000－１次調査……14
　山ノ井遺跡2000－２次調査……15
　平野遺跡2000－１次調査……16
　平野廃寺2000－１次調査……17
　大県遺跡2000－１次調査……18
　大県遺跡2000－３次調査……19
　大県遺跡2000－４次調査……20
　大県南遺跡2000－３次調査……21
第４章　太平寺遺跡……22
　太平寺遺跡2000－１次調査……23
第５章　平尾山古墳群・鳥取千軒……26
　平尾山古墳群2000－２次調査……27
　鳥取千軒遺跡2000－１次調査……28
第６章　玉手山遺跡……29
　玉手山遺跡2000－１次調査……30
　玉手山遺跡2000－２次調査……31
　玉手山遺跡2000－３次調査……32
第７章　田辺遺跡……33
　田辺遺跡2000－１次調査……34
　田辺遺跡2000－２次調査……35
　田辺遺跡2000－３次調査……36
　田辺遺跡2000－４次調査……37
報告書抄録

挿　図　目　次

図－１　船橋遺跡調査対象地位置図……9
図－２　船橋遺跡2000－２次調査区位置図……10
図－３　船橋遺跡2000－２次調査平面図・断面図……10
図－４　船橋遺跡2000－４次調査区位置図……11
図－５　船橋遺跡2000－４次調査平面図・断面図……11
図－６　船橋遺跡2000－５次調査区位置図……12
図－７　船橋遺跡2000－５次調査平面図・断面図……12
図－８　山ノ井・平野・平野廃寺・大県・大県南遺跡調査対象地位置図……13
図－９　山ノ井遺跡2000－１次調査区位置図……14
図－10　山ノ井遺跡2000－１次調査平面図・断面図……14
図－11　山ノ井遺跡2000－１次調査区出土遺物……14
図－12　山ノ井遺跡2000－２次調査区位置図……15
図－13　山ノ井遺跡2000－２調査平面図・断面図……15
図－14　平野遺跡2000－１次調査調査区位置図……16
図－15　平野遺跡2000－１次調査平面図・断面図……16
図－16　平野廃寺2000－１調査区位置図……17
図－17　平野廃寺2000－１次調査平面図・断面図……17
図－18　大県遺跡2000－１次調査区位置図……18
図－19　大県遺跡2000－１次調査平面図・断面図……18
図－20　大県遺跡2000－３次調査区位置図……19
図－21　大県遺跡2000－３調査平面図・断面図……19
図－22　大県遺跡2000－４次調査区位置図……20
図－23　大県遺跡2000－４次調査平面図・断面図……20
図－24　大県南遺跡2000－３次調査区位置図……21
図－25　大県南遺跡2000－３次調査平面図・断面図……21
図－26　大県南遺跡2000－３次調査区出土遺物……21
図－27　太平寺遺跡調査対象地位置図……22
図－28　太平寺遺跡2000－１次調査区位置図……23
図－29　太平寺遺跡2000－１次調査第１トレンチ平面図・断面図……23
図－30　太平寺遺跡2000－１次調査第２トレンチ平面図・断面図……23
図－31　太平寺遺跡2000－１次調査区出土遺物……24
図－32　太平寺廃寺小字……25

図－33　平尾山古墳群・鳥取千軒遺跡調査対象地位置図……26
図－34　平尾山古墳群2000－２次調査調査区位置図……27
図－35　平尾山古墳群2000－２次調査平面図・断面図……27
図－36　鳥取千軒遺跡2000－１次調査調査区位置図……28
図－37　鳥取千軒遺跡2000－１次調査平面図・断面図……28
図－38　玉手山遺跡調査対象地位置図……29
図－39　玉手山遺跡2000－１次調査調査区位置図……30
図－40　玉手山遺跡2000－１次調査平面図・断面図……30
図－41　玉手山遺跡2000－２次調査調査区位置図……31
図－42　玉手山遺跡2000－２次調査平面図・断面図……31
図－43　玉手山遺跡2000－３次調査調査区位置図……32
図－44　玉手山遺跡2000－３次調査平面図・断面図……32
図－45　田辺遺跡調査対象地位置図……33
図－46　田辺遺跡2000－１次調査調査区位置図……34
図－47　田辺遺跡2000－１次調査平面図・断面図……34
図－48　田辺遺跡2000－２次調査調査区位置図……35
図－49　田辺遺跡2000－２次調査平面図・断面図……35
図－50　田辺遺跡2000－３次調査調査区位置図……36
図－51　田辺遺跡2000－３次調査平面図・断面図……36
図－52　田辺遺跡2000－４次調査調査区位置図……37
図－53　田辺遺跡2000－４次調査平面図・断面図……37

表　目　次

表－１　57条２・３届出及び通知件数月別集計表（2000年１月～2000年12月）……1
表－２　表－１に係る指導事項月別集計表（2000年１月～2000年12月）……1
表－３　遺跡別届出及び通知件数（2000年１月～2000年12月）……2
表－４　近年５ヶ年の届出・通知件数の推移……3
表－５　遺跡別届出及び通知件数（1999年１月～1999年12月）（1998年１月～1998年12月）……4
表－６　遺跡別届出及び通知件数（1997年１月～1997年12月）（1996年１月～1996年12月）……6
表－７　2000年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧表……7
表－８　報告書抄録……38

図　版　目　次

図版－１　船橋遺跡2000－２次調査（全景、土層断面）
図版－２　船橋遺跡2000－４次調査（全景、土層断面）
図版－３　船橋遺跡2000－５次調査（土層断面、土層断面）
図版－４　山ノ井遺跡2000－１次調査（全景、全景）
図版－５　山ノ井遺跡2000－１次調査（遺物出土状況、出土遺物）
図版－６　山ノ井遺跡2000－２次調査（全景、全景）
図版－７　平野遺跡2000－１次調査（全景、土層断面）
図版－８　平野廃寺2000－１次調査（全景、土層断面）
図版－９　大県遺跡2000－１次調査（全景、土層断面）
図版－10　大県遺跡2000－３次調査（全景、全景）
図版－11　大県遺跡2000－４次調査（全景、全景）
図版－12　大県南遺跡2000－３次調査（全景、全景）
図版－13　大県南遺跡2000－３次調査（遺物出土状況、出土遺物）
図版－14　太平寺遺跡2000－１次調査（第１トレンチ、第１トレンチ）
図版－15　太平寺遺跡2000－１次調査（第２トレンチ、第２トレンチ）
図版－16　太平寺遺跡2000－１次調査（出土遺物、出土遺物）
図版－17　平尾山古墳群2000－２次調査（全景、全景）
図版－18　鳥取千軒遺跡2000－１次調査（全景、全景）
図版－19　玉手山遺跡2000－１次調査（全景、全景）
図版－20　玉手山遺跡2000－２次調査（全景、全景）
図版－21　玉手山遺跡2000－３次調査（全景、土層断面）
図版－22　田辺遺跡2000－１次調査（全景、全景）
図版－23　田辺遺跡2000－２次調査（全景、全景）
図版－24　田辺遺跡2000－４次調査（全景、全景）
図版－25　田辺遺跡2000－５次調査（第１トレンチ、第２トレンチ）

第１章　調査の概要

第１節　本年度の調査の概要

平成12年の調査は、国庫補助事業の件数が例年と変化がなく行われたが、公共事業や原因者負担事業の大幅な減少がある。その内容を概観してみたい。

公共事業は、下水道の敷設に伴う調査が主体となり、防火水槽や道路拡福など小規模な調査が主であた。下水道工事に伴う調査は、立会調査により市内各所の遺跡で行い、遺構や遺物の出土がなかったが、遺跡の状況把握に努めた。遺跡の防火水槽工事に伴う調査、平尾山古墳群内の道路拡福に伴う調査も試掘調査を実施したが遺構や遺物はなかった。

原因者負担事業としてこれまで盛んに建築されたマンション等の集合住宅が過剰気味になり、届出件数も少なくなり、遺跡外の場所での建設も見られた。遺跡内においても発掘調査が必要となる掘削深度の深い高層住宅より基礎深度が浅く遺跡深度まで至らない個建ての住宅への変更になっている事例も増加した。

国庫補助事業は、市内遺跡全般に広く新規の宅地での調査と既存建物の建替えによる２つの種類の調査があり、後者の比率が増加する傾向がある。前者は、農地から宅地に転用する事例が多く、後者の場合の調査において、周辺の調査事例から遺構や遺物が発見される可能性が高い場所においても既存建物建設時の造成によって地形の削平や撹乱によって遺物包含層が消滅してしまった調査事例も多く見受けられた。

年月 事業区分	H12 －１	－２	－３	－４	－５	－６	－７	－８	－９	－10	－11	－12	計
市関係工業事業	0	0	0	0	5	5	3	4	3	0	3	1	24
国府関係公共事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
原因負担事業	6	13	18	15	14	11	23	12	24	13	10	12	171
国庫補助事業	8	16	17	6	12	11	11	8	9	4	7	11	120
合　　計	14	29	35	21	31	27	37	24	36	17	21	24	316

表－１　57条２・３届出及び通知件数月別集計表（2000年１月～2000年12月）

年月 指導事項	H12 －１	－２	－３	－４	－５	－６	－７	－８	－９	－10	－11	－12	計
発掘調査	3	4	4	3	6	4	7	3	1	1	4	3	43
立会調査	1	1	4	4	3	6	4	6	5	2	2	3	41
慎重工事	10	24	27	14	22	17	26	15	30	14	15	18	232
合　　計	14	29	35	21	31	27	37	24	36	17	21	24	316

表－２　表－１に係る指導事項月別集計表（2000年１月～2000年12月）

本年の届出及び通知件数は、前頁表－１のとおりである。各月毎の変化をみると、春期と夏期にその大きな波があり、秋期や冬期になると減少している。日本の生活習慣や勤務形態、税制上の運用によっても建設時期の集中する傾向は大きい。

公共機関の通知件数は１月から４月までは通知がなく、５月から９月に均等的になされ、10月以降漸次少なくなっている。これは、予算執行の計画的な側面があり制約されている。

原因者負担事業は、総数171件があり、毎月ほぼ均等な届出があるが、10件を割っているのは１月のみで20件を越す月は、７月と９月である。

また、届出や通知に対する指導内容を月別に集計したものが表－２である。発掘調査件数は43件で届出及び通知件数の総数の約14％である。ほぼ月毎に届出と通知がなされているが、５～７月にやや多く集中している。この件数は、公共機関の通知が増加していることによる原因ではなく、個人住宅の届出が増加したことによる。

立会調査は、総数41件(総数の13％)である。この内、公共機関の通知に対して12件の立会調査がある。これは、下水道関連事業がこの調査の主体となっている。狭小な人孔や幅が狭い埋管に対応している。慎重工事は、文化財に影響が少ない工事であり、低湿地部の遺跡深度が深く基礎が浅い個人住宅などがその対象となることが多い。

	遺跡名	届出	発掘	立会	慎重
1	本郷遺跡	26	1	5	20
2	船橋遺跡	32	8	3	21
3	山ノ井遺跡	14	3	3	8
4	平野遺跡	24	2	1	21
5	大県遺跡	28	5	3	20
6	大県南遺跡	46	5	4	37
7	太平寺遺跡	9	3	1	5
8	安堂遺跡				
9	高井田遺跡	13			13
10	鳥取千軒遺跡	1	1		
12	玉手山遺跡	49	5	5	39
15	田辺遺跡	30	5	12	13
13	原山遺跡				
20	平野廃寺	1	1		
21	大県廃寺				
23	太平寺廃寺				
24	安堂廃寺				
30	河内国分寺跡	1	1		
28	原山廃寺				
32	平尾山古墳群	8	2		6
34	玉手山古墳群				
11	青谷遺跡	3			3
14	円明遺跡	2			2
18	船橋廃寺				
19	法善寺廃寺	3		1	2
22	大県南廃寺				
25	高井田廃寺	1			1
26	片山廃寺				
27	五十村廃寺				
29	田辺廃寺				
31	国分尼寺跡				
33	高井田横穴群	4			4
37	ぬく谷古墳群	1			1
35	玉手山１号墳	2		1	1
36	玉手山東横穴群				
38	松岳山古墳群				
39	芝山古墳群				
40	田辺古墳群	2			2
41	誉田山古墳群	1			1
16	大県郡条里遺構	13	1		12
43	奈良街道				
17	石川町遺物包蔵地	2		2	
42	明神山古墳群				
		317	44	41	232

表－３　遺跡別届出及び通知件数

(2000年1月～2000年12月)

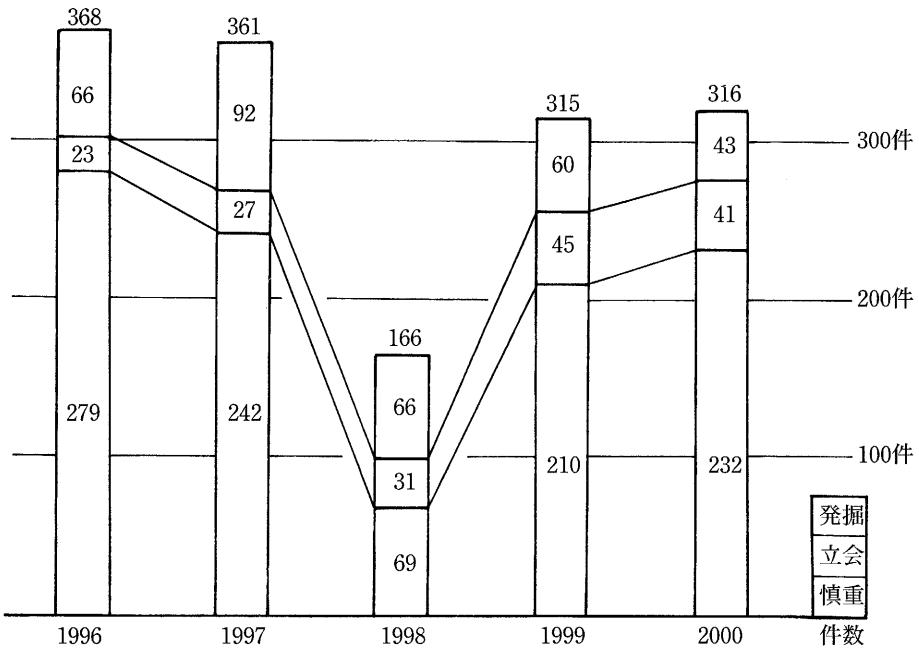
第２節　近年５ヶ年の調査の概要

近年５ヶ年の調査の概要を述べる。

届出と通知の総数は、1996年から2000年まで358件、361件、166件、315件、316件である。この総数の推移は、景気の波による変化が多大の影響を与えていることに否定が出来ない。また、個人住宅への課税を減じる措置も届出の増加の一端を担っていると考えられる。その実数を測り得ないが、旧家屋の耐震性を心配し、地震の対策を講じるための建替えも申請者からの説明からも伺える。市域の遺跡の状況が、柏原市による文化財調査体制が確立したことによって飛躍的な状況把握が進み、模索の時期から大きく成長した。約20年間の調査による蓄積が現在の文化財対応として反映し、指導を行う源流となっている。

市内遺跡の状況は、集落遺跡を中心として古墳、横穴墓、その他の墓、社寺跡、条理遺構、官衛跡、遺物散布地、生産遺跡など多くの種類がある。市内の地形が大和川と石川の２大河川を中心としてひらけた低湿地地区と生駒山地や玉手山丘陵、金剛山脈の北端にあたる明神山系の丘陵地区があり、後者が市域の半分以上を占め、遺跡の種類や時期によってその立地が異なっている。

1996年の届出及び通知の傾向を遺跡別にみれば、玉手山遺跡が75件で最も多い。遺跡が丘陵上にあることから調査深度が浅く発掘調査の指示が14件となっている。次に田辺遺跡は、届出及び通知が45件で発掘調査の件数も10件と多い。次に本郷遺跡が届出及び通知が40件と多いわりに発掘調査の件数が１件と少ない。これは、大和川縁辺部の低湿地の集落遺跡で遺跡深度が深く建物基礎等が影響を与えなかったことが言える。このように、船橋遺跡、大県郡条里遺構、生駒山地西麓部の古大和川や恩智川に近い地区の遺跡は同様な傾向がある。立会調査は、玉手山遺跡(10件)、大県遺跡(３件)となっている。



表－４　近年５ヶ年の届出・通知件数の推移

	遺跡名	届出	発掘	立会	慎重
1	本郷遺跡	13		3	10
2	船橋遺跡	38	6	1	31
3	山ノ井遺跡	11	2	2	7
4	平野遺跡	27	3	1	23
5	大県遺跡	12	3	3	6
6	大県南遺跡	21	4		17
7	太平寺遺跡	4			4
8	安堂遺跡	5	4	1	
9	高井田遺跡	12			12
10	鳥取千軒遺跡	2		2	
11	青谷遺跡	2	2		
12	玉手山遺跡	53	7	9	37
13	原山遺跡	4	2		2
14	円明遺跡				
15	田辺遺跡	46	20	7	19
16	大県郡条里遺構	10		1	9
17	石川町遺物包蔵地	1		1	
18	船橋廃寺				
19	法善寺廃寺	1			1
20	平野廃寺	2	1		1
21	大県廃寺	2	2		
22	大県南廃寺				
23	太平寺廃寺	1			1
24	安堂廃寺				
25	高井田廃寺	1			1
26	片山廃寺				
27	五十村廃寺				
28	原山廃寺				
29	田辺廃寺				
30	河内国分寺跡				
31	国分尼寺跡				
32	平尾山古墳群	12	4	1	7
33	高井田横穴群	13			13
34	玉手山古墳群				
35	玉手山1号墳				
36	玉手山東横穴群				
37	ぬく谷古墳群	5			5
38	松岳山古墳群	13		13	
39	芝山古墳群	1			1
40	田辺古墳群	1			1
41	誉田山古墳群	1			1
41	明神山古墳群				
43	奈良街道	1			1
		315	60	45	210

	遺跡名	届出	発掘	立会	慎重
1	本郷遺跡	9	3	3	3
2	船橋遺跡	24	3	1	20
3	山ノ井遺跡	1	1		
4	平野遺跡	11	4		7
5	大県遺跡	11	5	4	2
6	大県南遺跡	6	3	2	1
7	太平寺遺跡	2		1	1
8	安堂遺跡	2	1		1
9	高井田遺跡	4			4
10	鳥取千軒遺跡				
11	青谷遺跡	4	4		
12	玉手山遺跡	26	18	4	4
13	原山遺跡	5	1	4	
14	円明遺跡				
15	田辺遺跡	28	11	5	12
16	大県郡条里遺構	4			4
17	石川町遺物包蔵地	1	1		
18	船橋廃寺	1	1		
19	法善寺廃寺				
20	平野廃寺	2	2		
21	大県廃寺				
22	大県南廃寺	9	2	5	2
23	太平寺廃寺				
24	安堂廃寺				
25	高井田廃寺				
26	片山廃寺				
27	五十村廃寺				
28	原山廃寺				
29	田辺廃寺				
30	河内国分寺跡				
31	国分尼寺跡				
32	平尾山古墳群	10	5	1	4
33	高井田横穴群	2	1		1
34	玉手山古墳群				
35	玉手山1号墳				
36	玉手山東横穴群				
37	ぬく谷古墳群				
38	松岳山古墳群				
39	芝山古墳群				
40	田辺古墳群	3			3
41	誉田山古墳群				
41	明神山古墳群	1		1	
43	奈良街道				
		166	66	31	69

表－5　遺跡別届出及び通知件数（1999年1月～1999年12月）（1998年1月～1998年12月）

1996年の主な調査は、日本道路公団の料金所建設に伴う事前試掘調査は、サヌカイト石器の生産遺跡として新規発見し、具体的に本調査を実施する予定で事業者と協議を実施している。これまで二上山周辺部に石材の産出地や石器加工遺跡が集中していたが、さらに広範囲に存在することが分った。

また、田辺遺跡内の国分中学校のプール建設に伴う事前発掘調査で鍛冶工房の鉄滓や鞴羽口、砥石等と青銅器工房であったことを示す鋳型、青銅素材、銅滓、溶解炉壁などが多量に出土した。7世紀代の大規模な工房は、一集落に供給する金属製品の量でなく、官営的な役割を持つ集団か大豪族が管理する集団であるのか、時期的に飛鳥池遺跡に先立つ専門集団の工房と考えられる。

大県南遺跡で共同住宅建設に伴う事前発掘調査で建物や溝等の遺構と多量の土器や鍛冶関係遺物が出土している。また、動物の骨に混じり、工具の把手を取り去った鹿角の破片もあり、どのような鉄製品を製作していたのかを知る貴重な資料である。

この他にも国庫補助事業において、船橋遺跡や大県遺跡、大県南遺跡、玉手山遺跡等で土坑や溝、ピット等の遺構から土器や鍛冶関係遺物が出土した。それぞれ遺跡の性格や内容を示す資料で遺跡の深度や密度、立地などさらに状況把握が出来た。

1997年の届出及び通知の傾向を遺跡別にみれば、玉手山遺跡で67件の届出及び通知があり、発掘調査の件数が19件である。次いで田辺遺跡で57件数の内19件が発掘調査件数となっている。次いで大県遺跡で27件数がある。前2遺跡が届出及び通知の件数が圧倒的に多い。遺跡の範囲が広いことと遺跡深度が浅いことによる傾向であろう。

立会調査は、玉手山遺跡(9件)、大県遺跡(6件)がある。

1997年の主な調査は、大県南遺跡において健康福祉センターの事前発掘調査で古墳時代後期の集落跡が検出され、建物や溝、土坑等に伴い多量の土器類と鍛冶関係遺物が出土している。大県南廃寺(山下寺)西方に隣接し寺院建立に関わった氏族の住居と考えられる。この年は、誉田山古墳群内のサヌカイト石器生産地の本調査を実施している。

国庫補助事業は、大県、大県南、平尾山古墳群、田辺廃寺、田辺遺跡、原山遺跡で土坑、ピット等の遺構と遺物が出土している。

1998年の届出及び通知の傾向を遺跡別にみれば、田辺遺跡が28件の届出及び通知があり、11件の発掘調査指示があり、玉手山遺跡は26件の内18件の発掘調査件数がある。この年は、前年に比べ届出及び通知が半減以下になり、景気の後退による現象であろうか。

立会調査は、大県南、田辺遺跡(各5件)、大県、玉手山、原山遺跡(各4件)があった。

1998年の主な調査は、公共事業の調査は北峰古墳群内の学校土地造成に伴う事前発掘調査でピット、土坑等を検出し、土器類と瓦が出土した。瓦は、河内国分寺関係のものである。田辺遺跡の小学校プール建設に伴う事前発掘調査でピット、土坑、溝に伴い土器類と鍛冶関係遺物が出土した。本郷遺跡の下水道工事の事前発掘調査で、狭小な人孔部分の調査で河川の遺構に伴い縄文、弥生、古墳時代の遺物が出土した。

原因者負担事業は、大県遺跡で宅地造成に伴い2基の横穴式石室墳を事前発掘調査を実施した。

	遺跡名	届出	発掘	立会	慎重
1	本郷遺跡	26	3	2	21
2	船橋遺跡	14	4	1	9
3	山ノ井遺跡	1	1		
4	平野遺跡	26	4	1	21
5	大県遺跡	27	5	6	16
6	大県南遺跡	14	2	1	11
7	太平寺遺跡	18	6	1	11
8	安堂遺跡	9	2		7
9	高井田遺跡	13			13
10	鳥取千軒遺跡				
11	青谷遺跡	12	9	3	
12	玉手山遺跡	67	19	9	39
13	原山遺跡	3	3		
14	円明遺跡	1			1
15	田辺遺跡	57	19	3	35
16	大県郡条里遺構	10			10
17	石川町遺物包蔵地				
18	船橋廃寺	1	1		
19	法善寺廃寺	3			3
20	平野廃寺				
21	大県廃寺	1			1
22	大県南廃寺	2	2		
23	太平寺廃寺				
24	安堂廃寺				
25	高井田廃寺	3			3
26	片山廃寺				
27	五十村廃寺	1	1		
28	原山廃寺				
29	田辺廃寺	1	1		
30	河内国分寺跡				
31	国分尼寺跡	1			1
32	平尾山古墳群	19	2		17
33	高井田横穴群	11	2		9
34	玉手山古墳群	2	1		1
35	玉手山1号墳				
36	玉手山東横穴群	1	1		
37	ぬく谷古墳群				
38	松岳山古墳群	3	3		
39	芝山古墳群				
40	田辺古墳群	13			13
41	誉田山古墳群				
41	明神山古墳群	1	1		
43	奈良街道				
		361	92	27	242

	遺跡名	届出	発掘	立会	慎重
1	本郷遺跡	40	1	2	37
2	船橋遺跡	27	2	0	25
3	山ノ井遺跡	8			8
4	平野遺跡	37	5	2	30
5	大県遺跡	21	8	3	10
6	大県南遺跡	5	3		2
7	太平寺遺跡	9	3		6
8	安堂遺跡	8	4		4
9	高井田遺跡	27			27
10	鳥取千軒遺跡				
11	青谷遺跡	1			1
12	玉手山遺跡	75	14	10	51
13	原山遺跡	2			2
14	円明遺跡	1			1
15	田辺遺跡	45	10	2	33
16	大県郡条里遺構	5			5
17	石川町遺物包蔵地				
18	船橋廃寺				
19	法善寺廃寺				
20	平野廃寺				
21	大県廃寺				
22	大県南廃寺	3	2		1
23	太平寺廃寺	4	1	1	2
24	安堂廃寺				
25	高井田廃寺	5	1	1	3
26	片山廃寺	1	1		
27	五十村廃寺				
28	原山廃寺	1			1
29	田辺廃寺				
30	河内国分寺跡				
31	国分尼寺跡	1	1		
32	平尾山古墳群	15	7	2	6
33	高井田横穴群	11	1		10
34	玉手山古墳群				
35	玉手山1号墳				
36	玉手山東横穴群				
37	ぬく谷古墳群				
38	松岳山古墳群	11	1		10
39	芝山古墳群				
40	田辺古墳群	4			4
41	誉田山古墳群	1	1		
41	明神山古墳群				
43	奈良街道				
		368	66	23	279

表－6　遺跡別届出及び通知件数（1997年1月～1997年12月）（1996年1月～1996年12月）

それぞれ遺存状態が悪いが多量の副葬品が出土した。集落遺跡に近くの古墳であり、時期や被葬者の性格を知る貴重な資料である。

国庫補助事業は、船橋廃寺、大県、大県南、安堂、田辺遺跡等の調査で土坑、溝等に伴い土器類や埴輪、鍛冶関係遺物が出土した。

1999年の届出及び通知の傾向を遺跡別にみれば、玉手山遺跡が53件の届出及び通知件数があり、７件の発掘調査指示がある。次いで田辺遺跡が46件の内発掘調査件数は最も多い20件を数える。次いで、船橋遺跡の届出及び通知が38件あり、内６件の発掘調査指示である。

立会調査は、松岳山古墳群(13件)、玉手山遺跡(９件)、田辺遺跡(７件)であった。

1999年の主な調査は、公共事業で平尾山古墳群の一般廃棄物採集処分場に伴う事前発掘調査で溝から祭祀に伴う土師器高杯等が出土した。原因者負担事業は、安堂遺跡で共同住宅に伴う事前の発掘調査を実施し、古墳時代から奈良時代の遺構と遺物が検出された。

国庫補助事業は、安堂、玉手山、田辺遺跡等からピット、溝、石列、土坑等の遺構に伴い土器、鍛冶関係遺物、サヌカイト剥片が出土した。

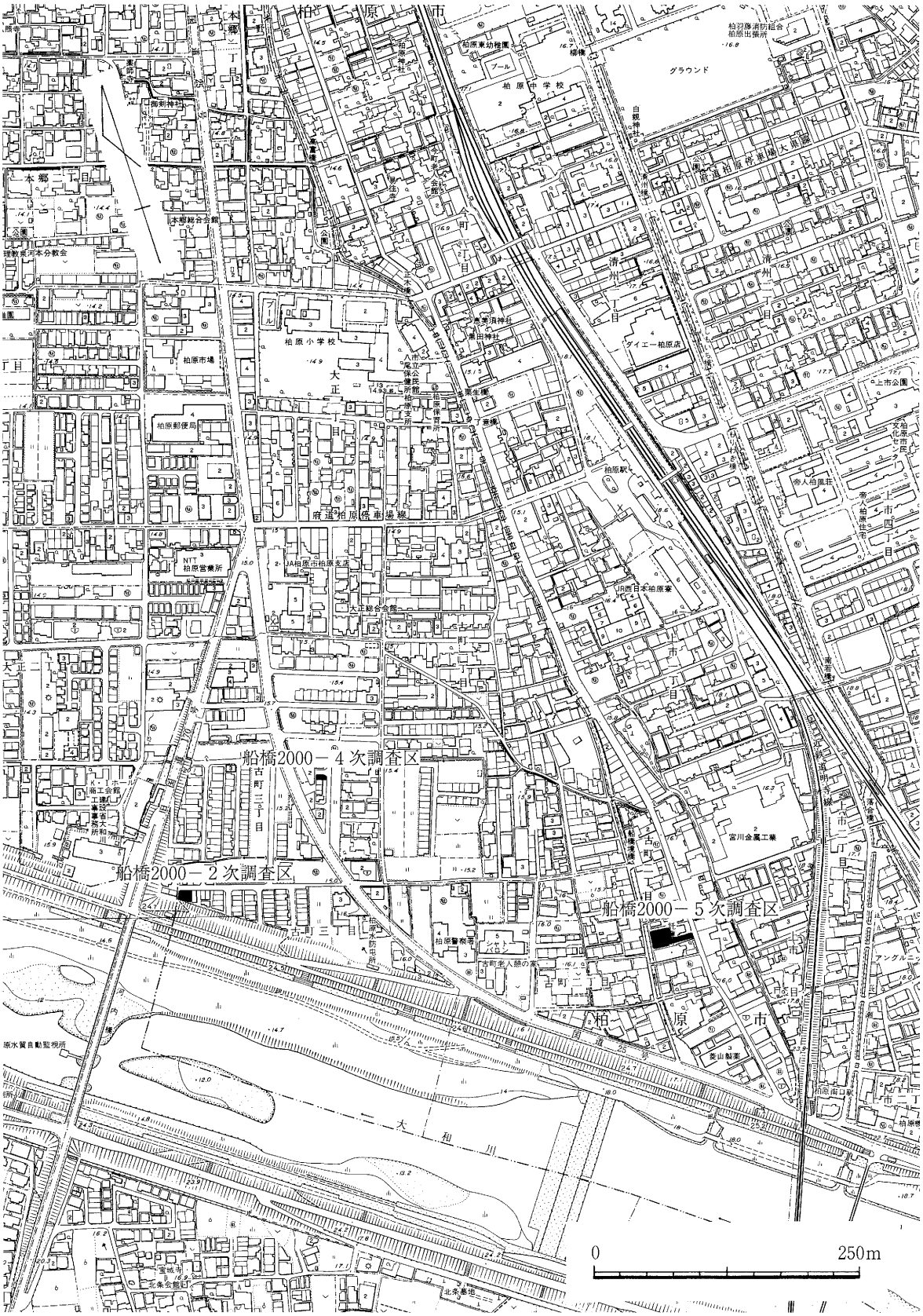
2000年の届出及び通知の傾向を遺跡別にみれば、玉手山遺跡が届出及び通知が50件あり、大県南遺跡45件、次いで船橋遺跡31件、田辺遺跡30件となっている。発掘調査の指示は、船橋遺跡が８件、大県、大県南、玉手山、田辺遺跡の５件がある。立会調査は、田辺遺跡(12件)、本郷、玉手山遺跡(各５件)がある。本郷遺跡は、下水道関連の調査である。

国庫補助事業は、本書報告するとおりであるが、全体的に遺跡の破壊に至るまでの開発が減少し調査によって得られる考古資料の減少傾向があるが、遺跡の保存の面からすれば好ましい状況である。

遺跡名	番号	所在地	対象面積	申請者	用途	担当	着手日	終了日	備考
山ノ井	2000−1	山ノ井町589−2	181.78	木下康治	個人住宅	北野	2000.1.5	2000.1.5	本書掲載
田辺	2000−1	田辺2−4499−19	304.94	黒田一也	個人住宅	北野	2000.1.20	2000.1.20	本書掲載
船橋	2000−1	古町2−549	907.35	山田住宅	宅地造成	石田	2000.1.21	2000.1.21	遺構遺物なし
船橋	2000−2	古町3−488−6他	105.09	高久雄次	個人住宅	北野	2000.1.28	2000.1.28	本書掲載
田辺	2000−2	国分本町6−620−2	135.38	白井和幸	個人住宅	北野	2000.2.21	2000.2.21	本書掲載
本郷	2000−1	本郷3−8−30	工作物	近畿自動車	広告塔	石田	2000.2.23	2000.2.23	遺構遺物なし
船橋	2000−3	古町1−600−5	75.9	西尾周子他	分譲住宅	石田	2000.2.28	2000.2.28	遺構遺物なし
大県	2000−1	平野1−64−23	44.04	吉見俊秀	個人住宅	北野	2000.3.1	2000.3.1	本書掲載
太平寺	2000−1	太平寺2−161	211.49	安田善昭	個人住宅	北野	2000.3.9	2000.3.13	本書掲載
大県南	2000−1	大県4−631	979	まどか保育園	保育園	石田	2000.3.15	2000.3.15	遺構遺物なし
河内国分寺跡	2000−1	国分東条町3701他	3600	柏原市	範囲確認	石田	2000.3.21	2000.3.31	?
大県	2000−2	平野1−115−4	335.47	田口	共同住宅	石田	2000.3.27	2000.3.27	遺構遺物なし
大県南	2000−2	大県4−603−1他	1475.87	古村正義	宅地造成	石田	2000.3.30	2000.3.30	重機提供
大県	2000−3	平野2−288−1他	78.53	巽康人	個人住宅	北野	2000.5.1	2000.5.1	本書掲載
大県	2000−4	平野2−288−1の一部	78.53	巽崇博	個人住宅	北野	2000.5.1	2000.5.1	本書掲載
玉手山	2000−1	旭ヶ丘1−242−59他	469.48	中嶋庄三郎	個人住宅	北野	2000.5.10	2000.5.10	本書掲載
玉手山	2000−2	旭ヶ丘1−508−2他	193.88	阪本進	個人住宅	北野	2000.5.18	2000.5.18	本書掲載
田辺	2000−3	国分本町6−1464−5	65.95	堀内一成	個人住宅	北野	2000.5.22	2000.5.22	本書掲載
太平寺廃寺	2000−1	太平寺2−154−8	188.49	(有)河内レース 小川清貴	店舗	石田	2000.5.23	2000.5.23	遺構遺物なし
鳥取千軒	2000−1	青谷603−2	265.33	村上守、村上敬子	個人住宅	北野	2000.5.30	2000.5.30	本書掲載
船橋	2000−4	古町3−472−6	49.36	岡幸治	個人住宅	北野	2000.6.1	2000.6.1	本書掲載
大県南	2000−3	大県4−13−7	186.72	宮本純子	個人住宅	北野	2000.6.12	2000.6.12	本書掲載
大県南	2000−4	大県3−574−1	1154.06	山本義信	共同住宅	石田	2000.6.21	2000.6.21	遺構遺物なし
船橋	2000−5	古町2−545の一部	405.58	武部進	個人住宅	北野	2000.7.3	2000.7.3	本書掲載
船橋	2000−6	大正3−637−1の一部他3筆	876.45	(株)大和銀行	店舗	石田	2000.7.28	2000.7.28	溝条遺構
船橋	2000−7	大正1−9−53	188.5	柏原市長	貯水槽	安村	2000.8.1	2000.8.10	遺構遺物なし
大県	2000−5	大県4−167−1、−7の一部	450.81	塩野隆子	共同住宅	石田	2000.8.4	2000.8.4	遺構遺物なし
平野廃寺	2000−1	平野2−384−1、384−2他	324.72	大野次男	個人住宅	北野	2000.8.10	2000.8.11	本書掲載
玉手山	2000−3	旭ヶ丘1−460−3	108.33	飯堂依子、井伊泉大	個人住宅	北野	2000.8.17	2000.8.17	本書掲載
平野	2000−1	山ノ井町563−3の一部	451.86	山本詮男	個人住宅	北野	2000.8.22	2000.8.22	本書掲載
平尾山古墳群	2000−1	大字青谷1953−1	6200	八尾土木事務所	道路	安村	2000.10.4	2000.10.4	遺構遺物なし
山ノ井	2000−2	山ノ井町724、726の各一部	262.62	山本順一	個人住宅	北野	2000.10.10	2000.10.10	本書掲載
平尾山古墳群	2000−2	青谷684−26	241.26	宮内康夫	個人住宅	北野	2000.10.24	2000.10.24	本書掲載
田辺	2000−4	国分本町6−641−2他4筆	1710.36	竹田澄子	個人住宅	北野	2000.12.14	2000.12.15	本書掲載

表－7　2000年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧表

第２章　船橋遺跡



図－１　船橋遺跡調査対象地位置図

船橋遺跡2000－2次調査

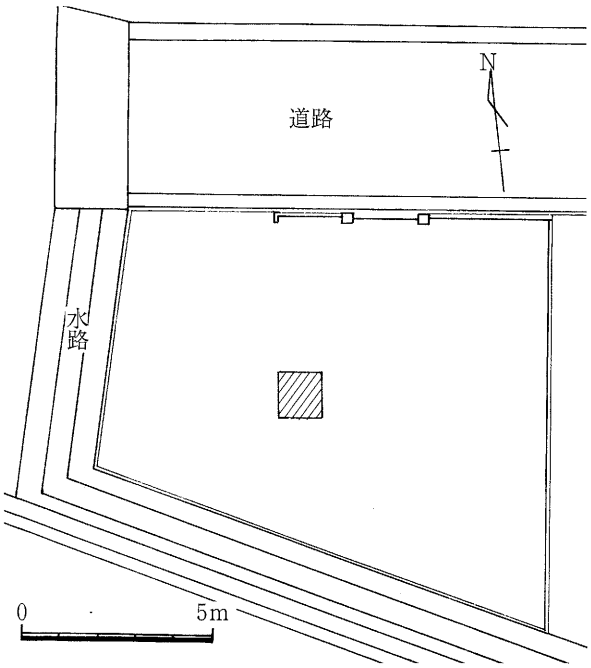
・調査対象地　　古町3－488－6他

・調 査 期 間　　2000年１月28日

・調 査 面 積　　2.2㎡/105.09㎡

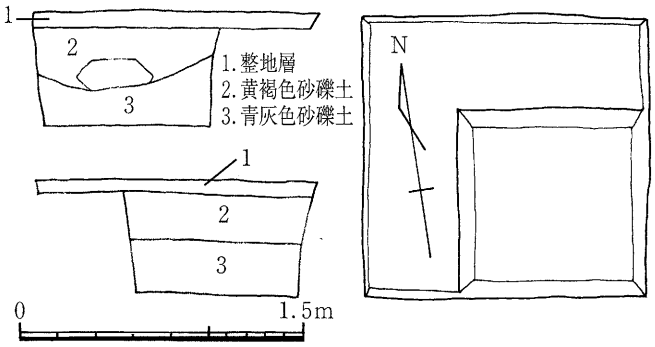
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、船橋遺跡北西端部で大和川北側堤防の裾部に位置している。周辺部での調査事例が少ないが、近年、当地より東に約200mの調査区で地表下約１mの深さから建物ピットの遺構と奈良時代前後の遺物が出土し、墨書土器も出土している。これまでの事例には、深い土層で遺構や遺物を検出すると予想していたが、その事例のように浅い地区があることも判った。また、南側100mの河川敷内でも多量の土器の散布が見られることから、当調査区も遺跡の中心部からそれほど離れていないと考えられた。



図－２　船橋遺跡2000－２次調査区位置図

当該地内のほぼ中央部に1.5×1.5mのトレンチを設定した。地表から約0.15m掘り下げた段階で範囲を狭め1mの部分に限って掘り下げた。約0.6mまで掘削したが遺構や遺物がなく、盛土や後世の堆積であることを確認した。土層は、第1層は、旧家屋の壊した整地層が約0.1mの厚さであり、その下層の第2層は黄褐色砂礫土で厚さ0.25mを測る。第３層は青灰色砂礫土である。第２、３層は、各土層に0.1～0.4m大の石が含まれ、旧家屋の造成時に埋め立てた亀の瀬地滑り地区周辺の砂礫を多く含んでいた。第3層は更に下層へ続き、建物基礎が遺跡に影響がないと考えられたので調査を終了した。



図－３　船橋遺跡2000－２次調査平面図・断面図

船橋遺跡2000－４次調査

・調査対象地　　古町３－472－６

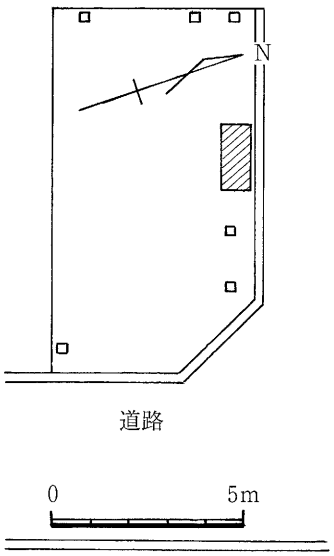
・調 査 期 間　　2000年６月１日

・調 査 面 積　　1.6m²/49.36m²

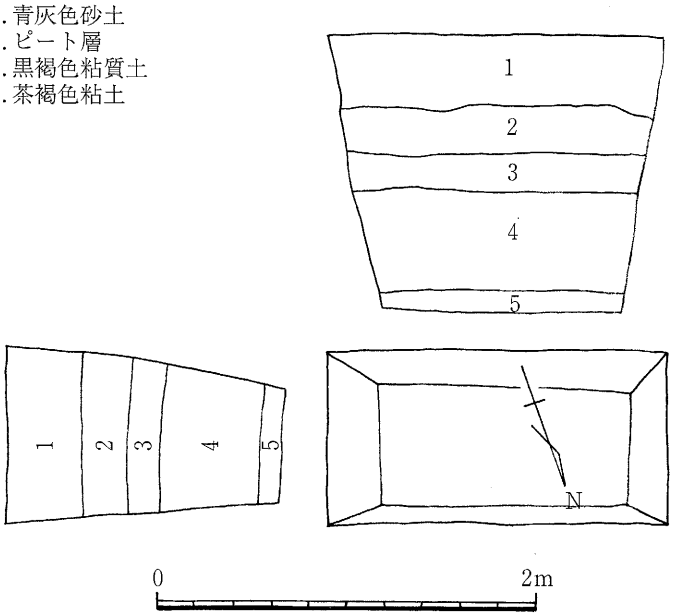
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、船橋遺跡の北側にあたり、多くの遺構や多量の遺物が検出された大阪府柏原警察署の建物から北側へ200mとあまり距離もなく、近隣で地表下浅く遺構が検出された事例もあることから、遺跡の状況把握のため確認調査を実施した。

当該地内の北側中央部に0.9×1.8mのトレンチを設定した。地表下1.5mまで掘削し、土層の堆積状況を確認した。第１層は約0.4mを測り新しい盛土(明黄褐色土)である。第２層は0.3mの盛土(青灰色砂土)で旧家屋建設時に造成した盛土である。第３層は、約0.2mの厚さのピート層(暗茶褐色粘質土)で湿地の堆積土で土層中に植物遺体が多く含まれていた。この土層は長く湿地として継続し堆積したもので、低湿地の利用頻度の少なかった土地であった可能性が高い。掘削時、第２層と第３層の間から湧水が激しかった。第４層は、約0.5mの黒褐色粘質土であり、上層は粘土に近く、下層は砂土を多く含んでいる。第５層は茶褐色粘土で更に下層へ続いている。周辺の土層等を参考にすればこの土層は中世以後の時期と考えられる。



図－４　船橋遺跡200－４次調査区位置図



図－５　船橋遺跡2000－４次調査平面図・断面図

船橋遺跡2000－５次調査

・調査対象地　　古町２－545の一部

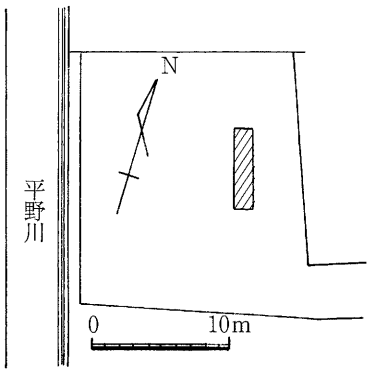
・調 査 期 間　　2000年７月３日

・調 査 面 積　　3.7m²/405.58m²

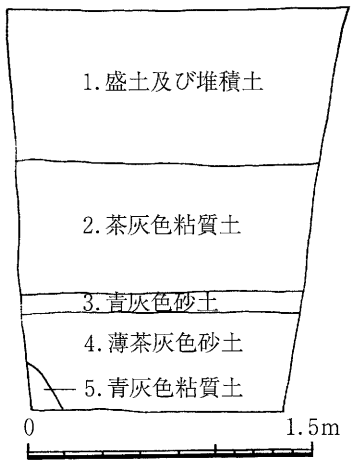
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、船橋遺跡北東部の大和川の旧河道より離れておらず自然堤防の付近で西側端部は平野川が隣接している。東側に隣接して奈良街道が南北方向に伸びるが、この街道内に下水道管の埋設に伴う事前調査で古墳時代以降の遺物が出土しており、これまで考えられていた古代の住居範囲より更に拡大していることが判っている。当調査区の遺跡の状況把握を行うため、遺物包含層が存在するかどうかの調査を実施した。

当該地内に1.5×5.0mのトレンチを設定した。浄化槽部分に重機提供により深さ2.1mまで掘削した。土層の堆積を観察した。第１層は盛土と堆積土で厚さ約0.7mを測る。第２層茶灰色粘質土で約0.7mを測る。田又は畑の耕作土であろう。第３層は約0.1mの青灰色砂土である。第４層は薄茶灰色砂土で厚さ0.5m以上で下層へ続いている。大和川の河川内か氾濫による堆積土であろうか。第４層には部分的に青灰色粘質土が見られた。ブロック状でなく下層へ続くと考えられる土層である。遺構遺物は検出しなかった。

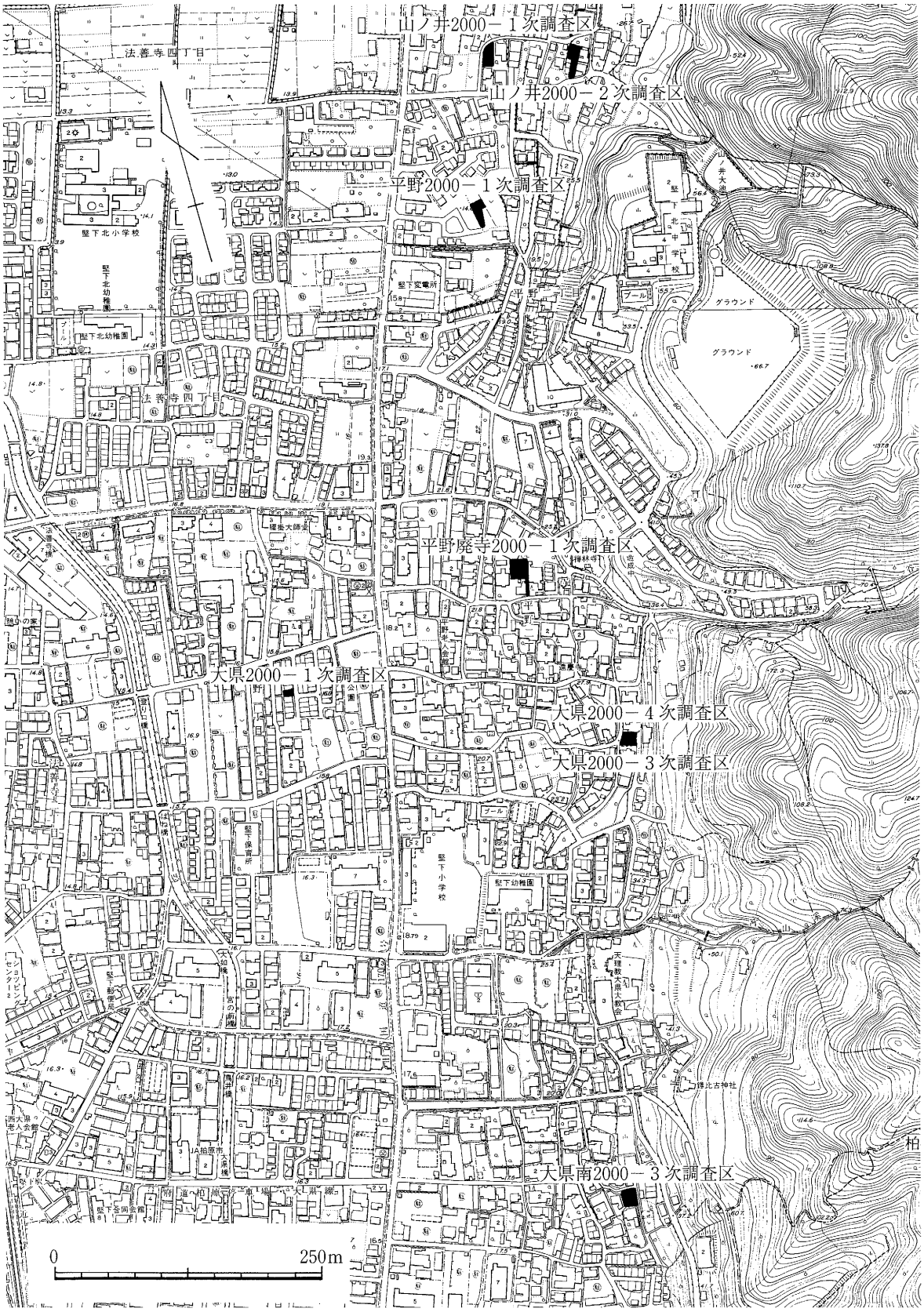


図－６　船橋遺跡2000－５次調査区位置図



図－７　船橋遺跡2000－５次調査平面図・断面図

第３章　山ノ井・平野・平野廃寺・大県・大県南遺跡



図－８　山ノ井・平野廃寺・大県・大県南遺跡調査対象地位置図

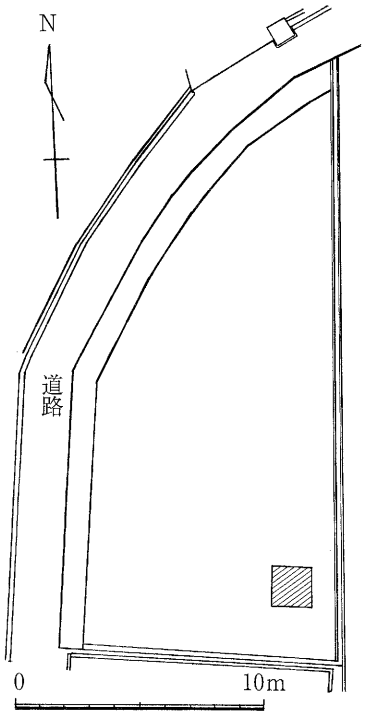
山ノ井遺跡2000－１次調査

・調査対象地　　山ノ井町589－２
・調 査 期 間　　2000年１月５日
・調 査 面 積　　2.5m²/191.78m²
・調査担当者　　北野　重

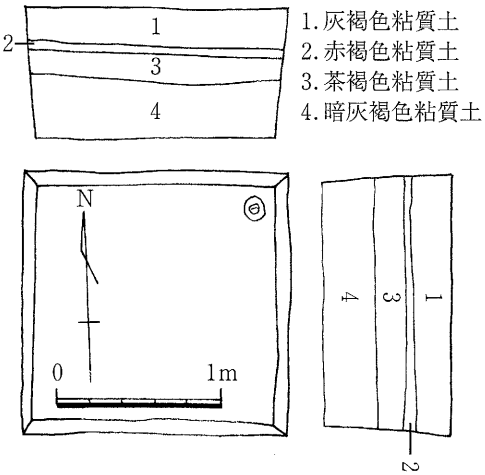
当調査区は、山ノ井遺跡の中央部で生駒山地の西麓部の緩斜面地で、沖積地を走る東高野街道と丘陵寄りの業平道との中程に位置している。山ノ井遺跡の調査事例は標高が20m近い場所で弥生時代の遺構や遺物が出土しているのが主なものである。近年東高野街道の近くで住宅開発が散見されるが、遺跡深度が深く調査は行われていない。

当該地内に1.6×1.6mのトレンチを設定した。上層約0.4mの土層は、第１層が盛土、第３層茶褐色粘質土で遺物は出土しなかった。下層は、第４層の暗灰褐色粘質土で遺物包含層である。遺構は北西隅部に建物ピットの柱穴内に柱根が遺っていた。

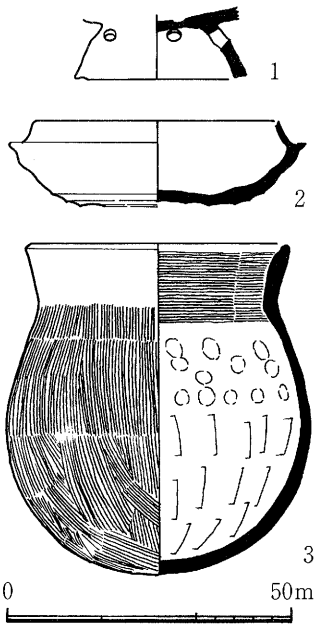
遺物は、第４層から須恵器、土師器が少量出土した。１は、須恵器の台付き器種である。台径8.2cm、台高3.2cmである。透かし孔が４方にある。色調は、青灰色、胎土は精良である。２は、須恵器杯身である。口径12.3cm、器高4.3cmの大きさで口縁端部に段を有する。底部は回転ヘラ削りを施している。３は、土師器の甕である。器高12.3cm、口径13.5cmを測る。口縁端部は肥厚し、内面に段を有する。外面にハケ目、内面は口縁部ハケ目、体部は板ナデと指押さえの調整を施している。色調は茶褐色、胎土は砂粒を多く含む。時期は６世紀後半である。



図－９　山ノ井遺跡2000－１次調査区位置図



図－10　山ノ井遺跡2000－１次調査
平面図・断面図



図－11　山ノ井遺跡2000－１次調査区出土遺物

山ノ井遺跡2000－２次調査

・調査対象地　　山ノ井町724、726の各一部

・調 査 期 間　　2000年10月10日

・調 査 面 積　　1.9㎡/262.62㎡

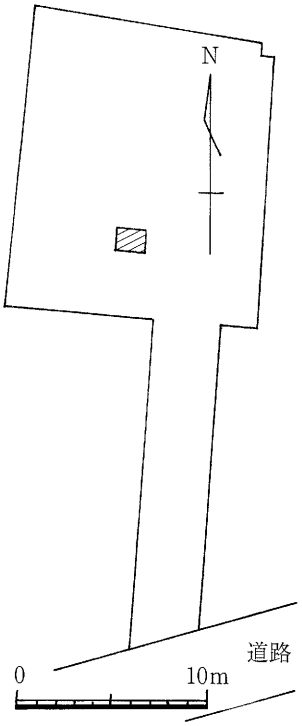
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、山ノ井遺跡の中央部の沖積地にあり、生駒山地の小谷筋に北接する場所に位置する。南接する道路の南側には今は埋め立てられ住宅地となっているが、元には池であり、その上方にも池が現存している。

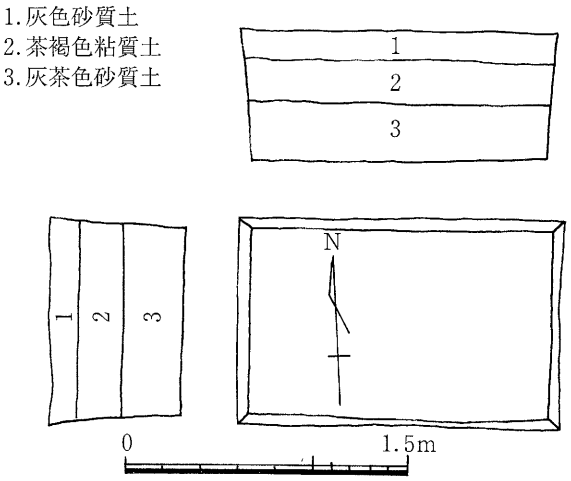
調査区は、東西方向に緩く傾斜し、北側へも下がっている場所である。調査区の南側中央部に1.1×1.7mのトレンチを設定した。地表下0.7mまで掘削したが、遺物が少量出土したが遺構は検出しなかった。

土層は、第１層は灰色砂質土で旧家屋の整地層で厚さ0.2m弱を測る。第２層は耕作土で茶褐色粘質土、厚さ約0.2mを測る。第３層の灰茶色砂質土は古墳時代から中世にかけての遺物包含層である。約0.3m以上を測り調査面より更に下方へ続いている。

遺物は、瓦器、土師器、須恵器の細片が少量出土した。時期は中世から古墳時代にかけての遺物であるが、第３層から混入して出土している。



図－12　山ノ井遺跡2000－２次調査区位置図



図－13　山ノ井遺跡2000－２次調査平面図・断面図

平野遺跡2000－１次調査

・調査対象地　　山ノ井町563－３の一部

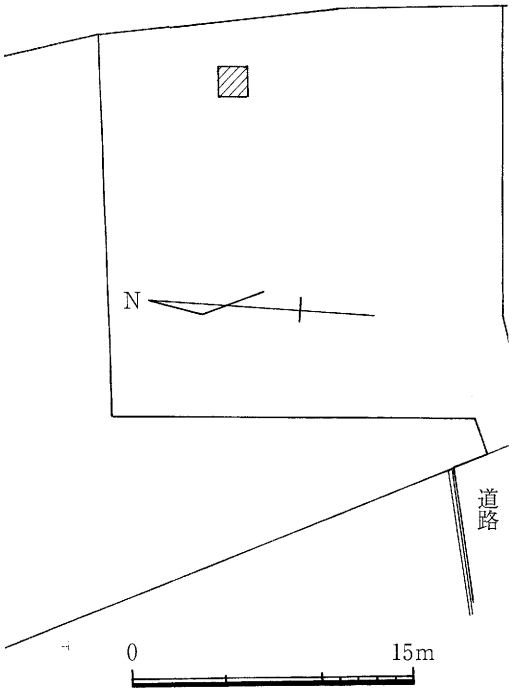
・調 査 期 間　　2000年８月22日

・調 査 面 積　　2.2㎡/451.86㎡

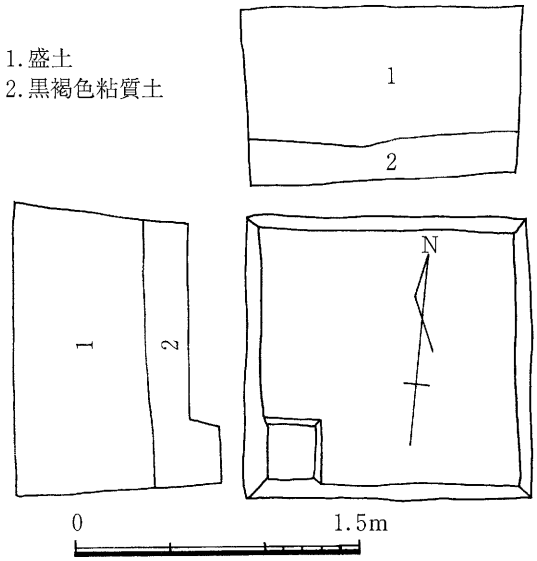
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、平野遺跡の北側で山ノ井遺跡に近接している。本報告に掲載している山ノ井遺跡１次調査にも近く、平野遺跡の主要な調査事例である関西電力(株)堅下変電所では弥生時代を中心に古墳時代にかけての遺物が多数出土している。この地区は、生駒山地が急傾斜をなし平野部になっており、山地の小谷筋は扇状地を形成してやや標高が高くなっているが、この調査区は南北の扇状地から離れており、扇状地より低位になっている。

当該地内の東側に1.5×1.5mのトレンチを設定した。調査は地表下0.9mまで掘削した。地表下0.7mまでが盛土で下層は耕作土である。遺構遺物はなかった。調査前に当該地は溜め池であったとの伝聞であったが、その状況は確認出来なかった。



図－14　平野遺跡2000－１次調査区位置図



図－15　平野遺跡2000－１次調査平面図・断面図

平野廃寺2000－１次調査

・調査対象地　　平野２丁目384－１、384－２他

・調 査 期 間　　2000年８月10日

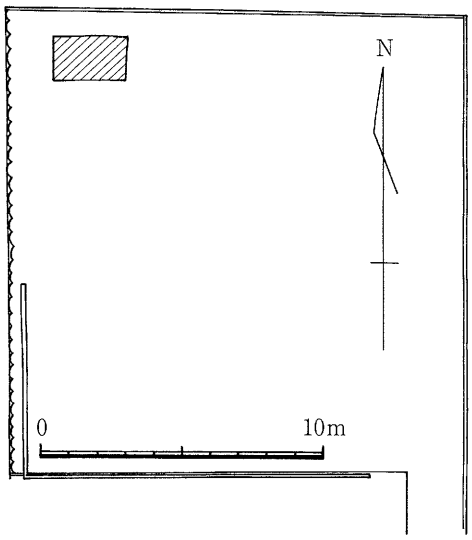
・調 査 面 積　　3.7㎡/324.72㎡

・調査担当者　　北野　重

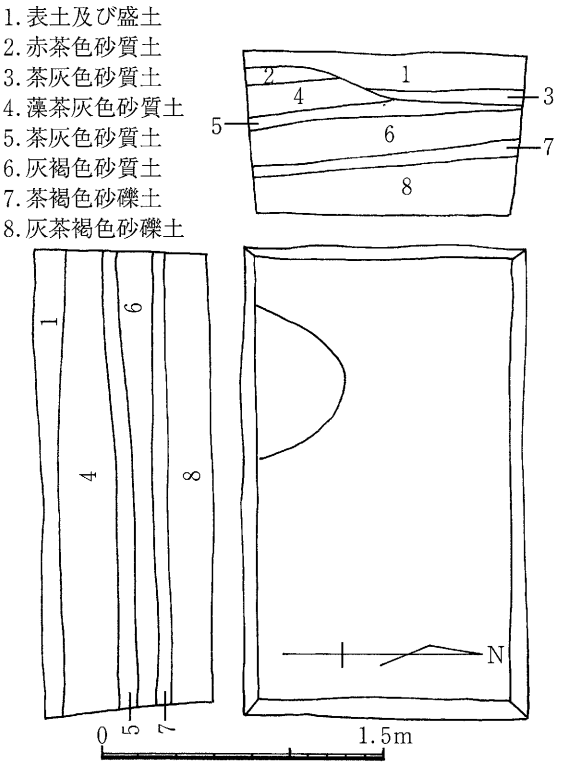
当地域は、縄文時代早期から弥生時代、古墳時代以降も安定した丘陵で営々と集落遺跡が営まれて古代寺院の平野廃寺の寺域内とも考えられ、それぞれの時代の遺構遺物が検出されているが、寺院関連遺物の出土が報告されていない。縄文時代は、早期の押形文土器が多数出土しており、継続して居住していたと考えられる遺跡である。

当該地内の北西部に1.5×2.5mのトレンチを設定した。

土層は、第１層が表土と盛土である。第２層は赤茶色砂質土、第３層は茶灰色砂質土、第４層は薄茶灰色砂質土、第５層は茶灰色砂質土、第６層は灰褐色砂質土、第７層は茶褐色砂礫土、第８層は灰茶褐色砂礫土である。深さ0.9mまで掘削し、第８層の下層から焼土坑を検出した。焼土坑は、南西部に径0.8mの平面形は円形で更に南側へ伸びている。埋土は赤褐色焼土で長時間燃焼されて赤変し平坦である。この焼土が単独の遺構であるのか、住居等に伴う遺構であるのか調査面積が小さく不明である。時期は、遺構内からの出土遺物がなく、第８層の土層などから土師器、須恵器の細かな遺物が出土した。古墳時代後期の遺物であろう。



図－16　平野廃寺2000－１次調査区位置図



図－17　平野廃寺2000－１次調査平面図・断面図

大県遺跡2000－１次調査

・調査対象地　　平野１－64－23

・調 査 期 間　　2000年３月１日

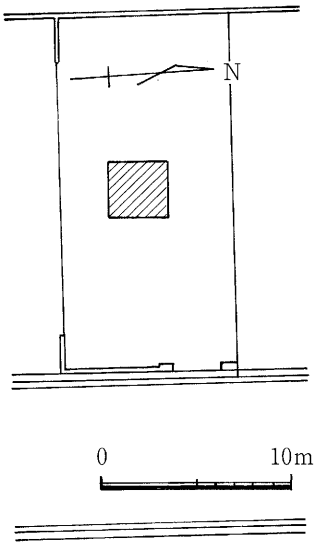
・調 査 面 積　　2.2㎡/44.04㎡

・調査担当者　　北野　重

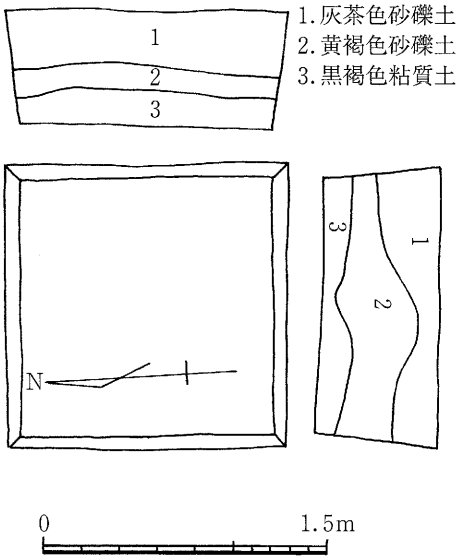
当調査区は、大県遺跡の西側で恩智川に近接する沖積地にあたる。近隣地では南東方向に約20mの場所で地表下0.5mから弥生時代から古墳時代にかけての遺構や遺物が出土している。また、北東方向に100mの場所で縄文時代早期から晩期の土器や遺構が検出されている。

当該地内中央部に1.5×1.5mのトレンチを設定した。

深さ約0.6mまで掘削したが遺構、遺物は確認しなかった。土層は後世の盛土と堆積土で、第１層は灰茶色砂礫土、第２層は黄褐色砂礫土、第３層は黒褐色粘質土と茶褐色粘質土の混層で盛土前の表土で花崗岩のバイ乱土が多く含まれる。当調査区は住宅地に宅地造成される時に田畑の上に盛土を施して整地している。今回の住宅は建替えにより、旧家屋の基礎より深くなるため遺跡の状況把握のため実施した。



図－18　大県遺跡2000－１次調査区位置図



図－19　大県遺跡2000－１次調査平面図・断面図

大県遺跡2000－３次調査

・調査対象地　　平野２－288－１他

・調 査 期 間　　2000年５月１日

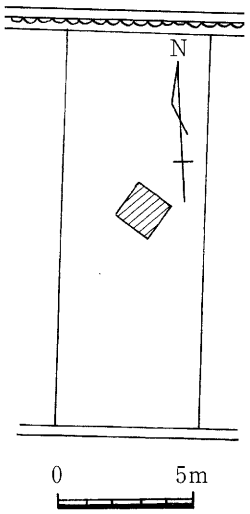
・調 査 面 積　　2.2㎡/78.53㎡

・調査担当者　　北野　重

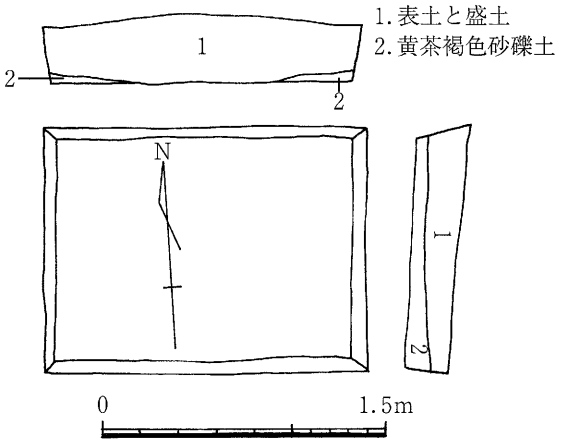
当調査区は、大県遺跡の東側中央部にあり、生駒山地の丘陵麓で住居が造られる地形環境の最も標高が高い位置にあり、周辺部での調査事例も多くある。やや北側では古墳時代後期から中世の時期まであり、更に北側では縄文時代から弥生時代の遺構や遺物も検出されている。西側地区では古墳時代から奈良時代までの遺構や遺物が出土しているが、鉄滓や鞴羽口などの鍛冶関係の工房が検出される北限となっている。

当調査区内の中央部に1.3×1.7mのトレンチを設定した。事業者提供による重機で地表下0.3mまで掘削した。

土層は、第１層は表土と盛土が約0.2m厚さがあり、第２層は黄茶褐色砂礫土で約0.1mの厚さを測り、地山である。遺構と遺物は出土しなかった。丘陵裾部と平行して走る道路があり、この道路より一段高く南北方向に同様の区画の宅地が南北にある小谷まで続いている。谷筋に近くの場所での調査事例は遺構や遺物が検出されることが多く、当地区で検出できなかったのは、旧家屋の造成時に大きく削平を受け、斜面地から平坦地を造った土地改変があったからであろう。



図－20　大県遺跡2000－３次調査区位置図



図－21　大県遺跡2000－３次調査平面図・断面図

大県遺跡2000－４次調査

・調査対象地　　平野２－288－１の一部

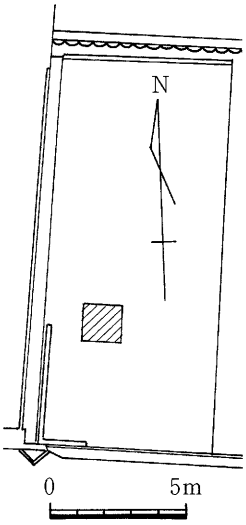
・調 査 期 間　　2000年５月１日

・調 査 面 積　　2.2㎡/78.53㎡

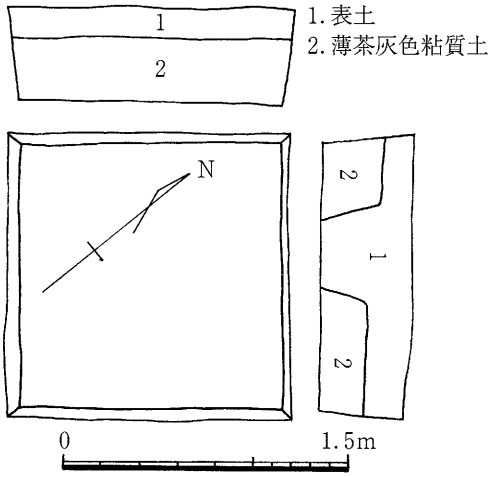
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、大県遺跡の東側中央部にあり、生駒山地の丘陵麓で住居が造られる地形的に限界と考えられる最も標高が高い位置にあり、2000－３調査区の直ぐ南側にあたる。当調査区内の東側の丘陵上には平野・大県古墳群があり、北側丘陵上約100mの場所に横穴式石室石室の後期古墳があり、集落と古墳群が重複している。

当調査区内の北側に1.5×1.5mのトレンチを設定した。事業者提供による重機で地表下0.5mまで掘削した。土層は、第１層は表土が約0.1mの厚さがあり、第２層は薄茶灰色粘質土で約0.4mの厚さがある。地山は、その下層から茶褐色粘質土がある。遺構と遺物は出土しなかった。当地区は、旧家屋の建設時に造成して遺跡が削平されている可能性がある。



図－22　大県遺跡2000－４次調査区位置図



図－23　大県遺跡2000－４次調査平面図・断面図

大県南遺跡2000－３次調査

・調査対象地　　大県４－13－７

・調 査 期 間　　2000年６月12日

・調 査 面 積　　1.6m²/186.72m²

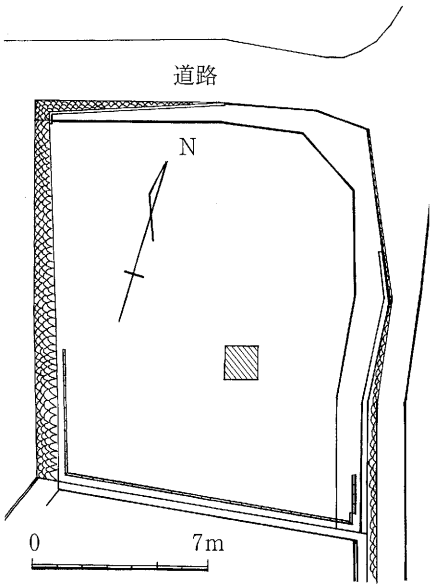
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、大県南遺跡の北東隅部にあたり、生駒山地の山裾である。

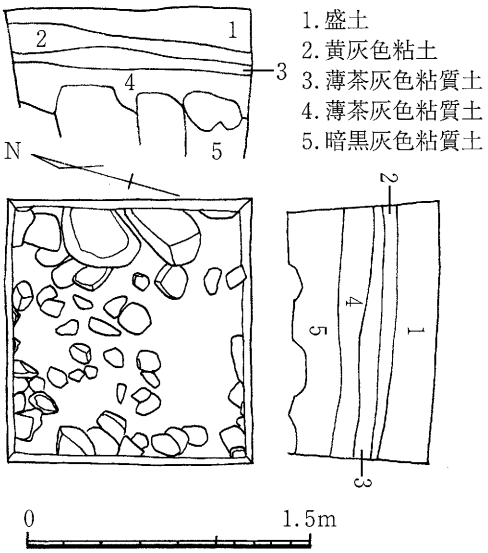
当該地内に1.3×1.4mのトレンチを設定した。調査区の東側が丘陵上方にあたり旧家屋の建築時に造成し平坦地に整地しており、西側は厚く埋め土を施しているため、調査区を東側部に設定した。

現地表下0.8mまで掘削した。土層は、第１層盛土及び撹乱土が0.2～0.3mの厚さがあり、第２層黄灰色粘土、第３層薄茶灰色粘質土、第４層薄茶灰色粘質土、第５層暗黒灰色粘質土である。第５層の下層には0.1～0.5mの大小石が混入していた。更に下層へ続き下層になるにしたがい石も大きくなっている。この石の性格は、谷筋に転落した自然石であるのか、石垣等の積み石が崩れて転落したものか不明である。遺物は、この石の中を中心に石器、土師器、須恵器、鉄滓がコンテナ１箱出土した。

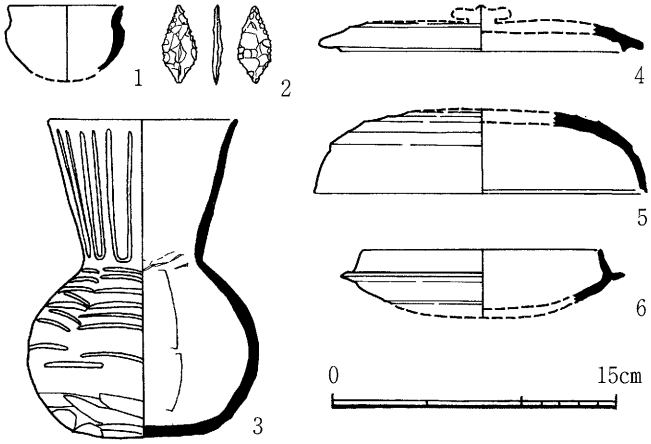
１は、土師器の小形甕である。口径6.0cm、器高4.0cmを測る。茶灰色を呈し、精良な粘土をしている。２は、サヌカイトの柳葉形石鏃である。３は、土師器の長頸壺である。頸部外面に縦方向と体部には横方向の磨きがある。底部はヘラ削りを施している。４～６は、須恵器杯蓋と身である。時期は６～７世紀である。



図－24　大県南遺跡2000－３次調査区位置図

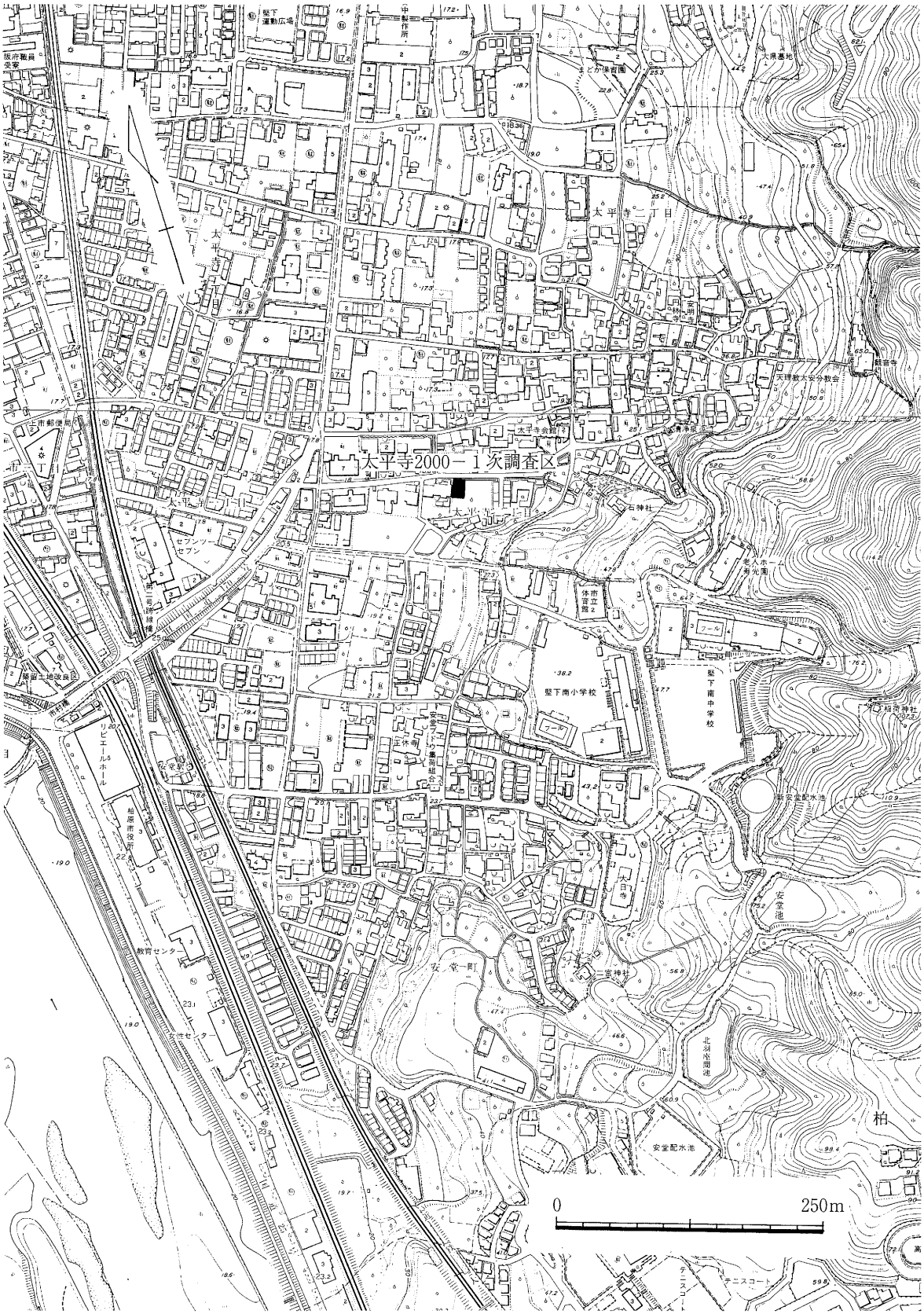


図－25　大県南遺跡2000－３次調査平面図・断面図



図－26　大県南遺跡2000－３次調査区出土遺物

第４章　太平寺遺跡



図－27　太平寺遺跡調査対象地位置図

太平寺遺跡2000－１次調査

・調査対象地　　太平寺２－161

・調 査 期 間　　2000年３月９日～３月13日

・調 査 面 積　　10.2m²/211.49m²

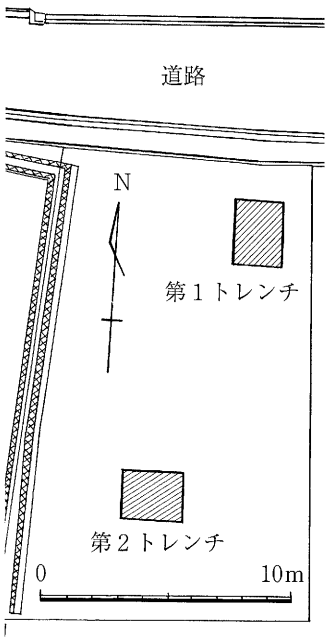
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、太平寺遺跡の南側中央部にあり、太平寺廃寺(智識寺跡)の南端に隣接している。智識寺の想定寺域の東西方向の中心線上にのり、伽藍の内南大門に近い場所に位置する。

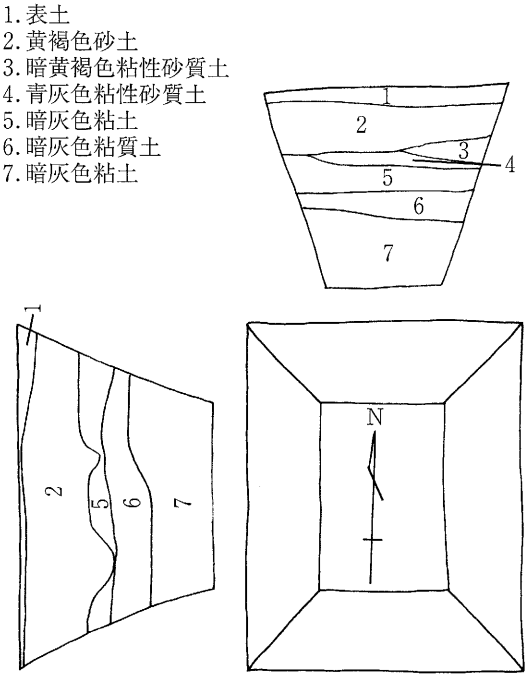
当調査区内に南北２ヶ所のトレンチを設定し調査を実施した。

第１トレンチは、調査区の北東部に2.0×2.6mの規模で深さ1.6mまで掘削した。

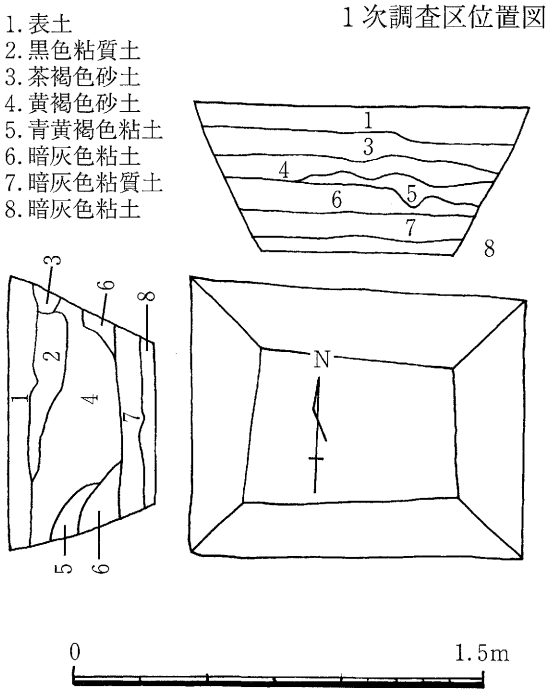
土層の堆積は、第１層は表土で約0.1mあり、第２層は黄褐色砂土である。この土層は広い範囲に見られ、0.2～0.6mの厚さを測る。第３層は暗黄褐色粘性砂質土、第４層は青灰色粘性砂質土である。第５層は暗灰色粘土が0.1～0.3mの厚さの旧耕作土である。西側断面で畝が遺っている。第６層は暗灰色粘質土で黄色砂土が混入している。第７層は暗灰色粘土で約0.5mの厚さを測る。この土層より下層には小礫層があり、底面に近いと考えられる。第７層から瓦片が出土している。



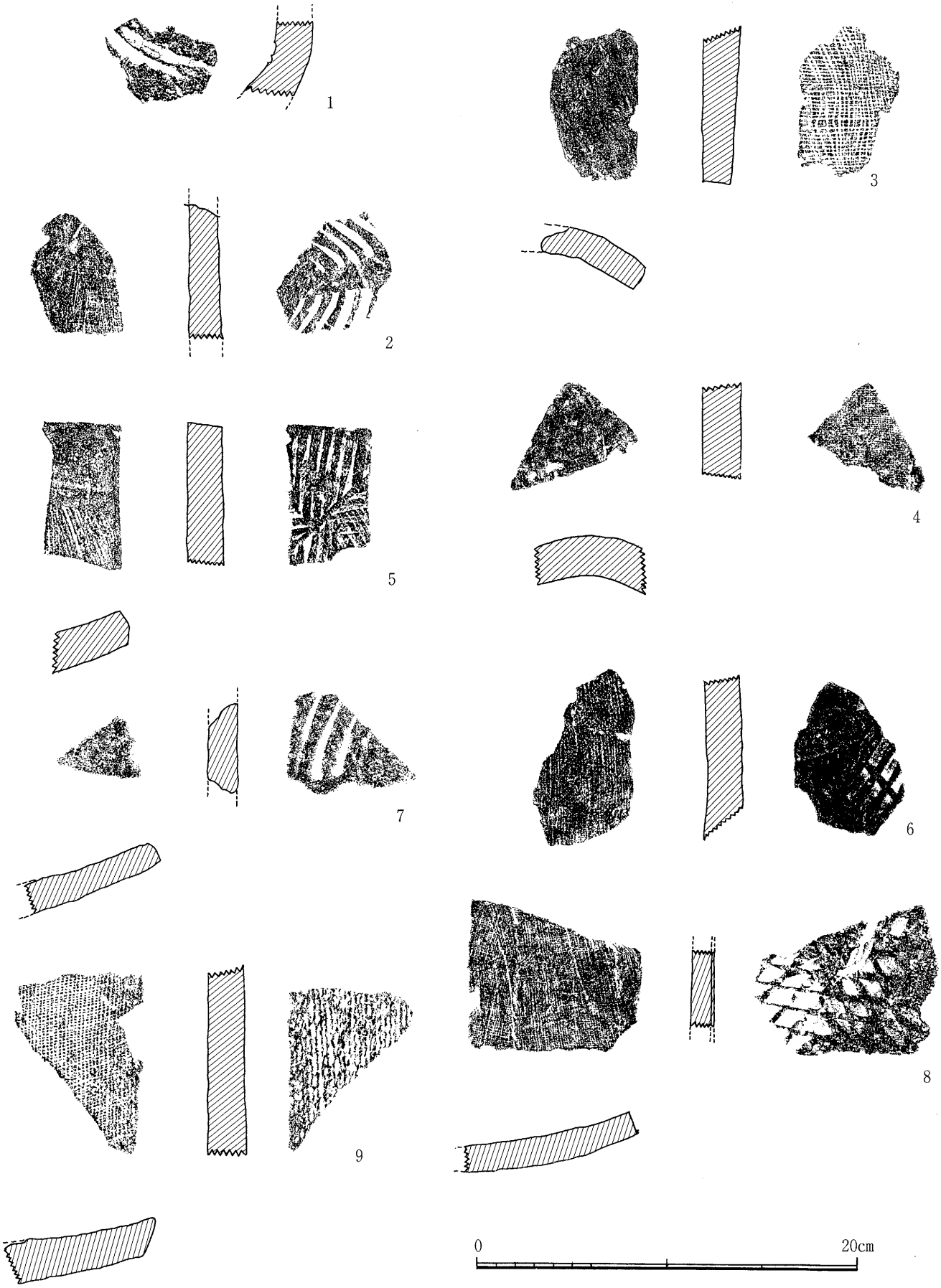
図－28　太平寺遺跡2000－１次調査区位置図



図－29　太平寺遺跡2000－１次第１トレンチ平面図・断面図



図－30　太平寺遺跡2000－１次第２トレンチ平面図・断面図

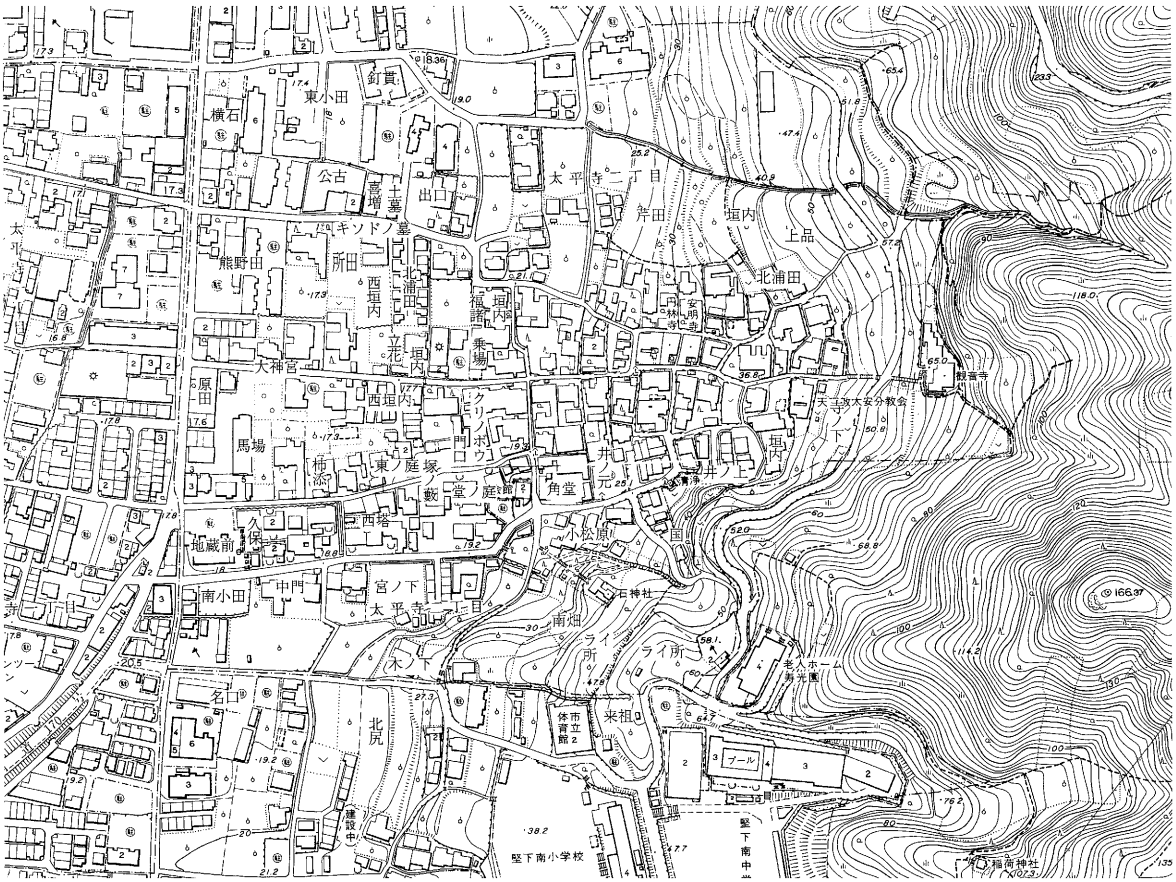


図－31　太平寺遺跡2000－１次調査区出土遺物

第２トレンチは、敷地南側に2.5×2.1mのトレンチを設定し深さ1.1mまで掘削した。土層は、第１層は表土の耕作土である。第２層は、黒色粘質土で焼却した木切れ等が含まれる。第３層は、茶褐色砂土で約0.2mの厚さを測る。第４層は黄褐色砂土、第５は青黄褐色粘土、第６は暗灰色粘土、第７層は暗灰色粘質土で0.2mの厚さである。第８は暗灰色粘土で大小砂粒が若干含まれる。瓦や須恵器の細片が出土した。

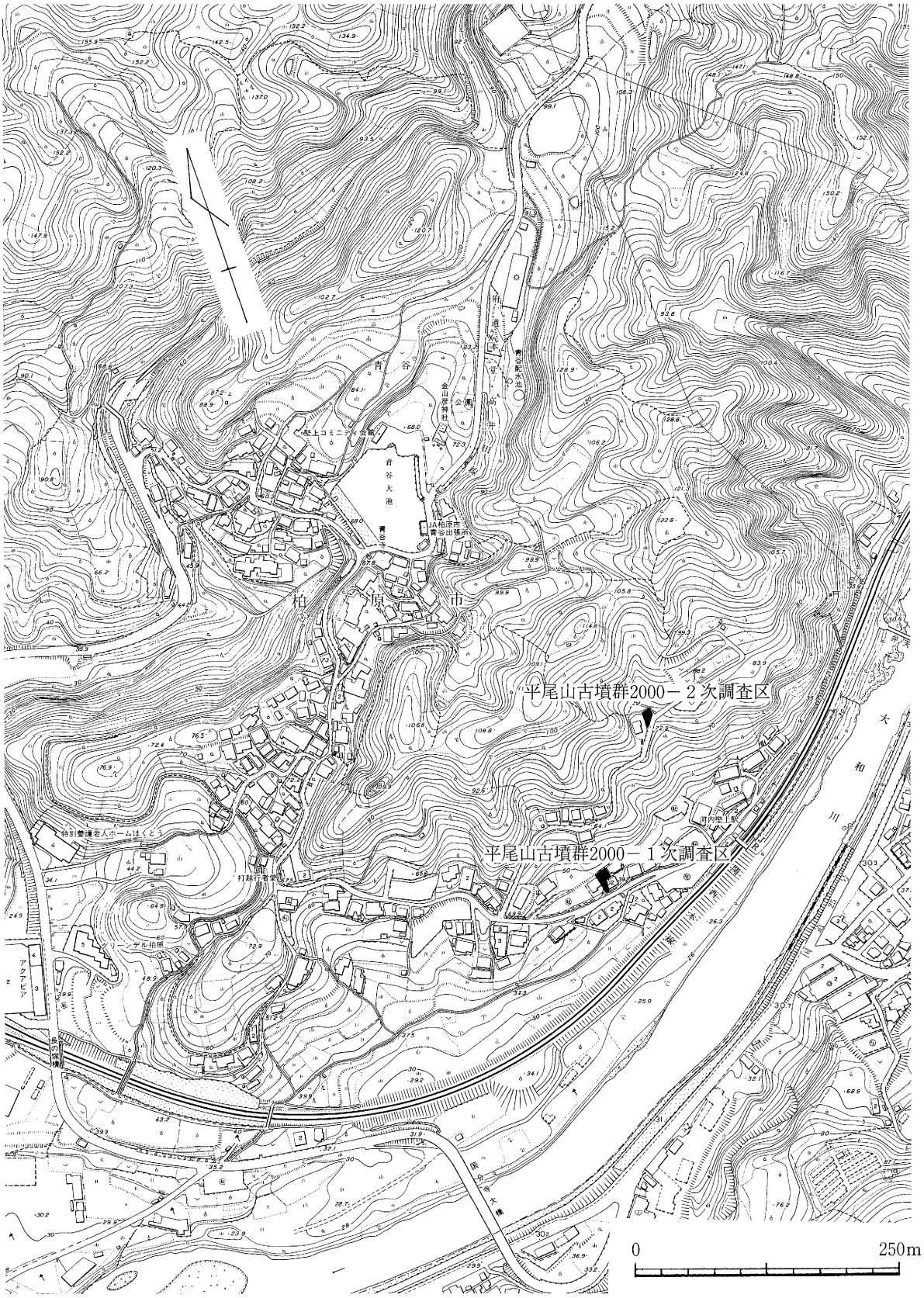
出土遺物は、瓦、須恵器が第１、２トレンチからそれぞれ少量ずつ出土した。瓦について説明を加える。１は、軒丸瓦の破片であるが外区の模様は遺存していない。２は、凸面に綾杉文叩きを施した平瓦片で凹面に布目痕がある。３と４は、丸瓦片で凸面はヘラナデかナデ調整を施し凹面は布目痕がある。５は凸面に綾杉文叩きがあり、凹面は布目がやや遺るナデ調整である。６は、綾杉文と布目痕が遺る平瓦である。７は、桶巻作りの平瓦で凸面に綾杉文を施す。８は、大きな格子叩きを施した平瓦片である。９は、凹面に縄目を施している。平瓦の内９のみが一枚作りの平瓦片で他は桶巻作りである。

小字の調査を実施した。智識は、同じ信仰を持った集団で唯一地域の豪族の建立した寺院ではなく、広く智識衆による寄附によって建てられた寺院である。この寺院は、左右両塔がある薬師寺式の伽藍配置が想定されているが、小字には西塔のみ見られる。寺院に関係する小字は、堂ノ庭、角堂、中門、クリノボウ、地蔵前、寺ノ庭がある。また、垣内や宮ノ下など河内六寺の寺域内にも同様の小字が遺っている。



図－32　太平寺廃寺小字

第５章　平尾山古墳群・鳥取千軒遺跡



図－33　平尾山古墳群・鳥取千軒遺跡調査対象地位置図

平尾山古墳群2000－２次調査

・調査対象地　　青谷684－26

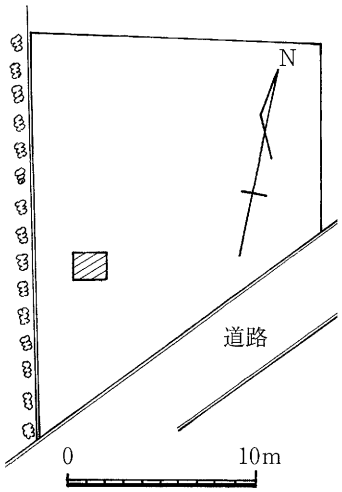
・調 査 期 間　　2000年10月24日

・調 査 面 積　　2.2㎡/241.26㎡

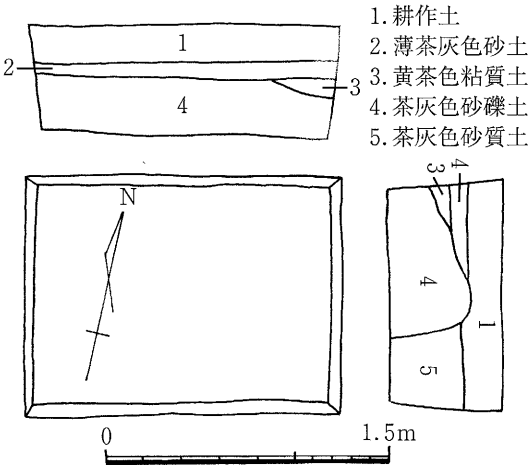
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、平尾山古墳群内にあり、古墳が存在するか又は鳥取千軒遺跡も近く集落遺跡がある可能性がある。これまで調査事例が少なく、ＪＲ線が走る丘陵麓部の現在の宅地から南方の田畑にかけての調査で古墳時代以降の土器の散布が見られた。この地域には竹原井行宮推定地や大和川対岸に河内国分寺があり、奈良時代は文化や戦略的重要な位置を占め、都があった奈良県下の遺跡と行き交う交通の要所であったと考えられる。

当該地内に1.3×1.7mのトレンチを設定した。上層約0.2mは畑の耕作土で、下層も新しい盛土のように考えられる。第２層は、薄茶灰色砂土、第３層黄茶色粘質土、第４層茶灰色砂礫土、第５層茶灰色砂質土である。第５層に炭が多く含まれ、葡萄畑で枯れ枝を燃やし肥料や病虫害のために有効であったとの伝聞を示している。その炭が混入したものであろう。遺構遺物は確認されなかった。



図－34　平尾山古墳群2000－２次調査区位置図



図－35　平尾山古墳群2000－２次調査平面図・断面図

鳥取千軒遺跡2000－１次調査

・調査対象地　　青谷603－２

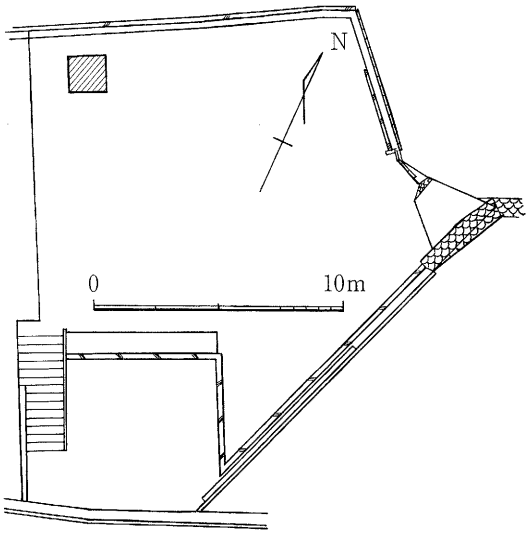
・調 査 期 間　　2000年５月30日

・調 査 面 積　　2.2㎡/256.33㎡

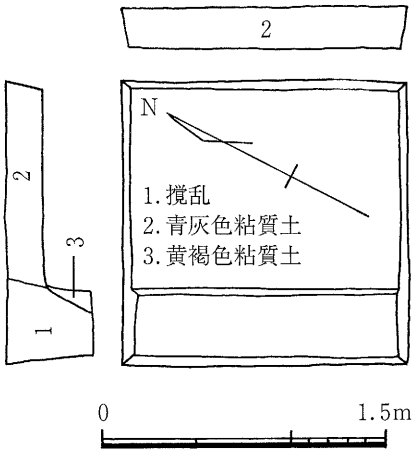
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、鳥取千軒遺跡の南東部にあたり、旧斜面地もあるが、現在も宅地として利用されている緩斜面又は平坦地が点在して広い場所を望まなければ建物を建てることができる。直ぐ南接して村落の中心を走る道路は古代の竜田道の候補であり、奈良時代には官道として平城京と難波宮とを行き来した街道であろう。また、古くから人々の移動や文化、物資が運ばれ、古代国家形成の基礎を築いた重要拠点でもある。

当該地内に1.5×1.5mのトレンチを設定した。約0.2mの土層を掘削し、地山を確認した。土層は青灰色粘質土である。遺構や遺物は確認しなかった。旧家屋建設時に造成が行われ削平を受けた可能性がある。

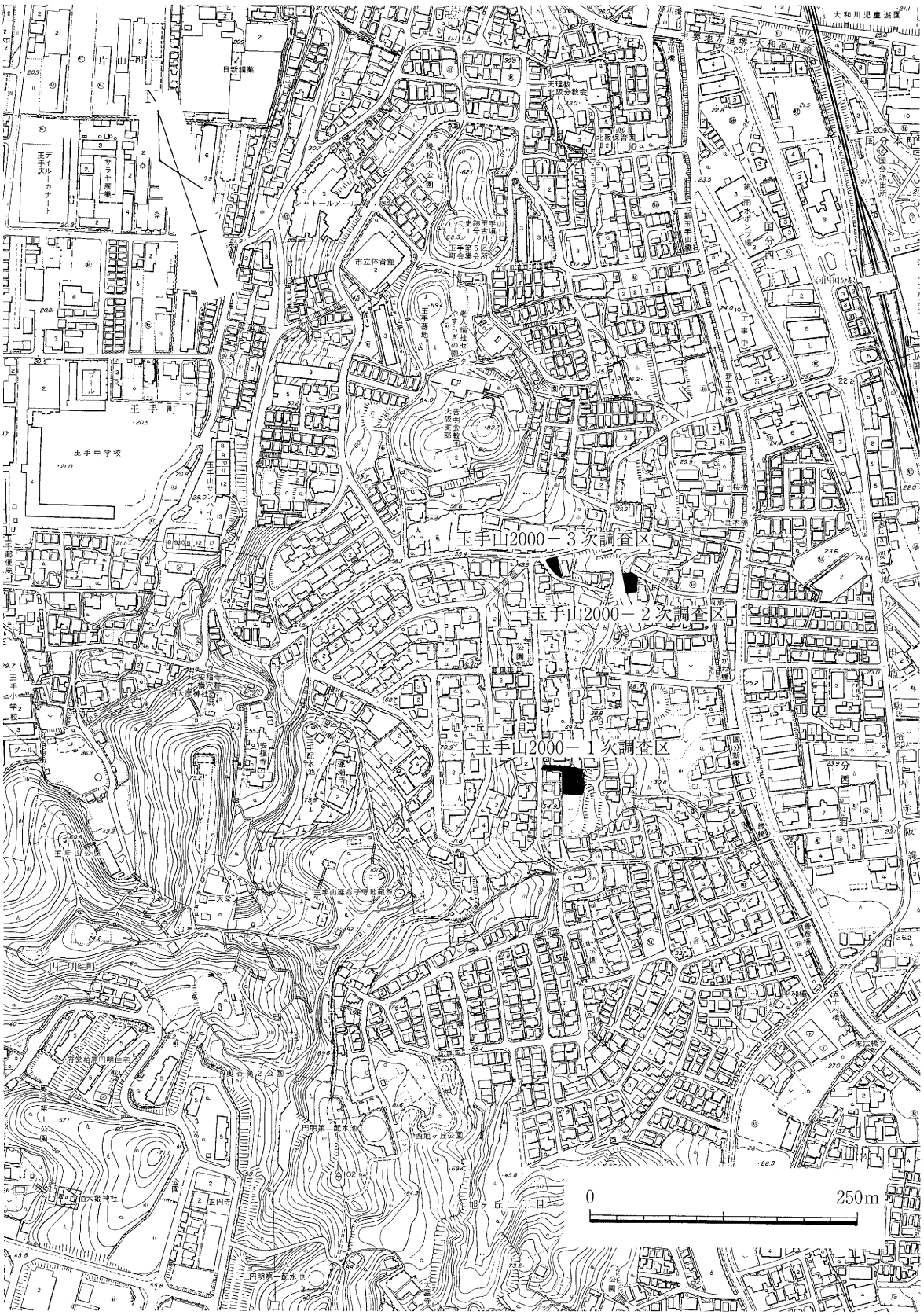


図－36　鳥取千軒遺跡2000－１次調査調査区位置図



図－37　鳥取千軒遺跡2000－１次調査平面図・断面図

第６章　玉手山遺跡



図－38　玉手山遺跡調査対象地位置図

玉手山遺跡2000－１次調査

・調査対象地　　旭ヶ丘１－242－59

・調 査 期 間　　2000年５月10日

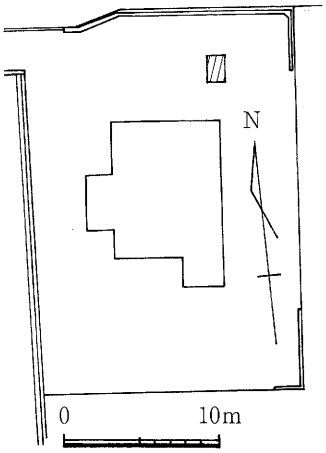
・調 査 面 積　　1.8㎡/469.48㎡

・調査担当者　　北野　重

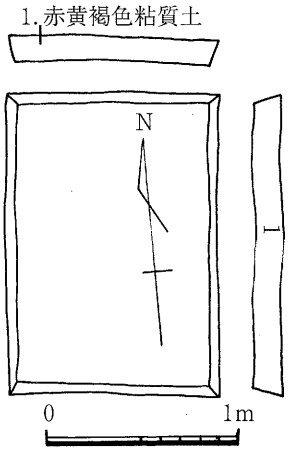
当調査区は、玉手山遺跡の中央部で丘陵の東側斜面地中程に位置する。丘陵の頂部には前期の古墳が連綿と築造されており、その周辺部で弥生時代から奈良時代にかけての集落関連の遺構や遺物が多数検出されているが、後世の宅地造成や耕作地として頻繁に利用され旧地形が大きく改変されてその概観を知る程度である。調査区は、斜面中程の平坦地がある場所で小さな尾根筋上にあり、その北側と東側へ傾斜している。

当該地内の北側に1.1×1.6mのトレンチを設定した。

地表下約0.15mまで堀り下げて地山を確認した。土層は赤黄褐色粘質土で地山の撹乱層と思われる。遺構と遺物はなく旧家屋の造成時に削平を受けたものであろう。更に下方の斜面地の調査事例に遺構や遺物が出土しているが、隣接地の畑や竹林には遺物の散布がない。後世の土地利用による大きな改変も考えられる。



図－39　玉手山遺跡2000－１次調査調査区位置図



図－40　玉手山遺跡2000－１次調査平面図・断面図

玉手山遺跡2000－２次調査

・調査対象地　　旭ヶ丘１－508－２他

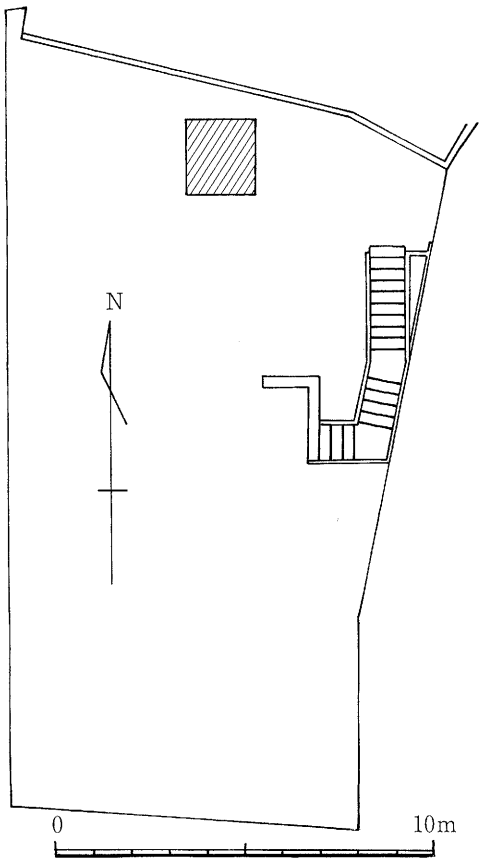
・調 査 期 間　　2000年５月18日

・調 査 面 積　　3.2㎡/193.88㎡

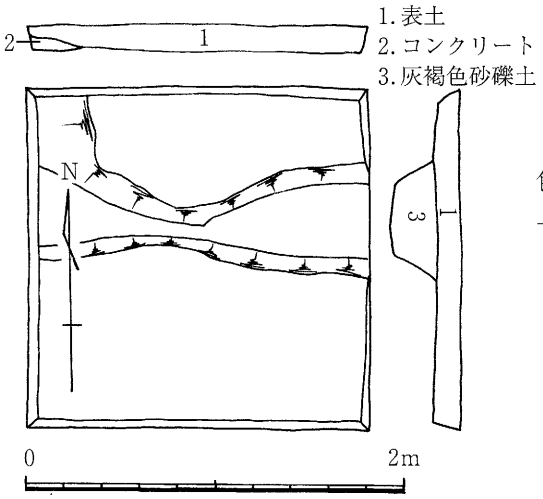
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、玉手山遺跡の中央部東側緩斜面地で宅地の造成が小区画毎に頻繁に行われたと考えられ、道路も行き止りの一番奥の宅地である。玉手山丘陵の北部は、丘陵の頂部には前期の古墳群があり、北西斜面地には中期の古墳や後期の安福寺横穴群が造られ、片山廃寺跡や火葬墓群など遺跡が集中している。河内国府から東方に続く長尾街道沿いにあたり、古来より拠点的な場所として位置付けられていた地域であろう。また、水運による交通も石川と大和川の分岐点にあたり、石川から意識した遺跡群である。西側斜面地は遺跡密度が少ないが、弥生時代から古墳、奈良時代を中心に遺構や遺物が検出されている。

当該地内の北側に1.8×1.8mのトレンチを設定した。この場所は駐車場として利用するため削平予定である。約0.1m掘り下げて地山を確認した。中央部に建物基礎を取り除いた溝があった。遺構や遺物はなく、表土下は地山を確認した。地山は茶灰色粘質土と灰白色粘土がある。土層は、第１層は旧家屋の整地層で下層は近世以降の盛土である。



図－41　玉手山遺跡2000－２次調査調査区位置図



図－42　玉手山遺跡2000－２次調査平面図・断面図

玉手山遺跡2000－３次調査

・調査対象地　　旭ヶ丘１丁目460－３

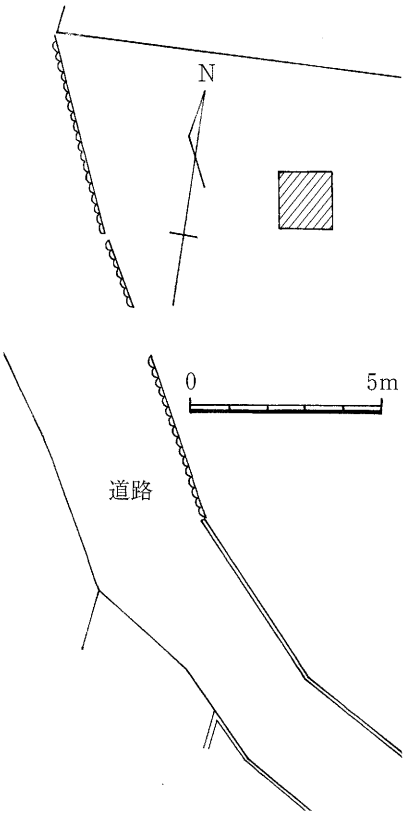
・調 査 期 間　　2000年８月17日

・調 査 面 積　　1.9m²/108.33m²

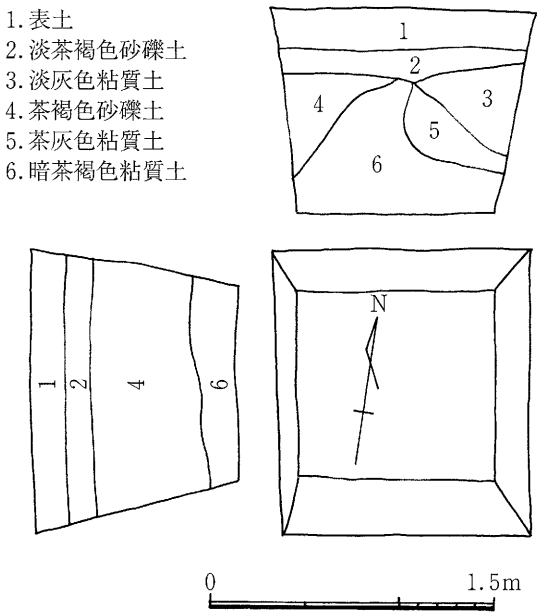
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、丘陵東側の斜面地上部で小枝谷が落ち込んでいるその中央部にあり、谷の始まり部と考えられる。周辺部の調査は、北側の道路向いで奈良時代頃の遺物が出土しており、更に西側では古墳時代後期の竪穴住居が検出されている。

当該地内に1.3×1.5mのトレンチを設定した。深さ1.1mまで掘削したが、遺構、遺物は検出されなかった。土層は、第１層は、表土又は盛土で約0.2mの厚さを測る。第２層は淡茶褐色砂礫土で非常に多くの礫を含む。第３層は淡灰色粘質土でブロック状に入っている。第４層は、茶褐色砂礫土で厚さ約0.6mあった。第５層は茶灰色粘質土でこれも第３層と同様の混入である。第６層は、暗茶褐色粘質土で更に下方へ続いている。遺構遺物はなかった。

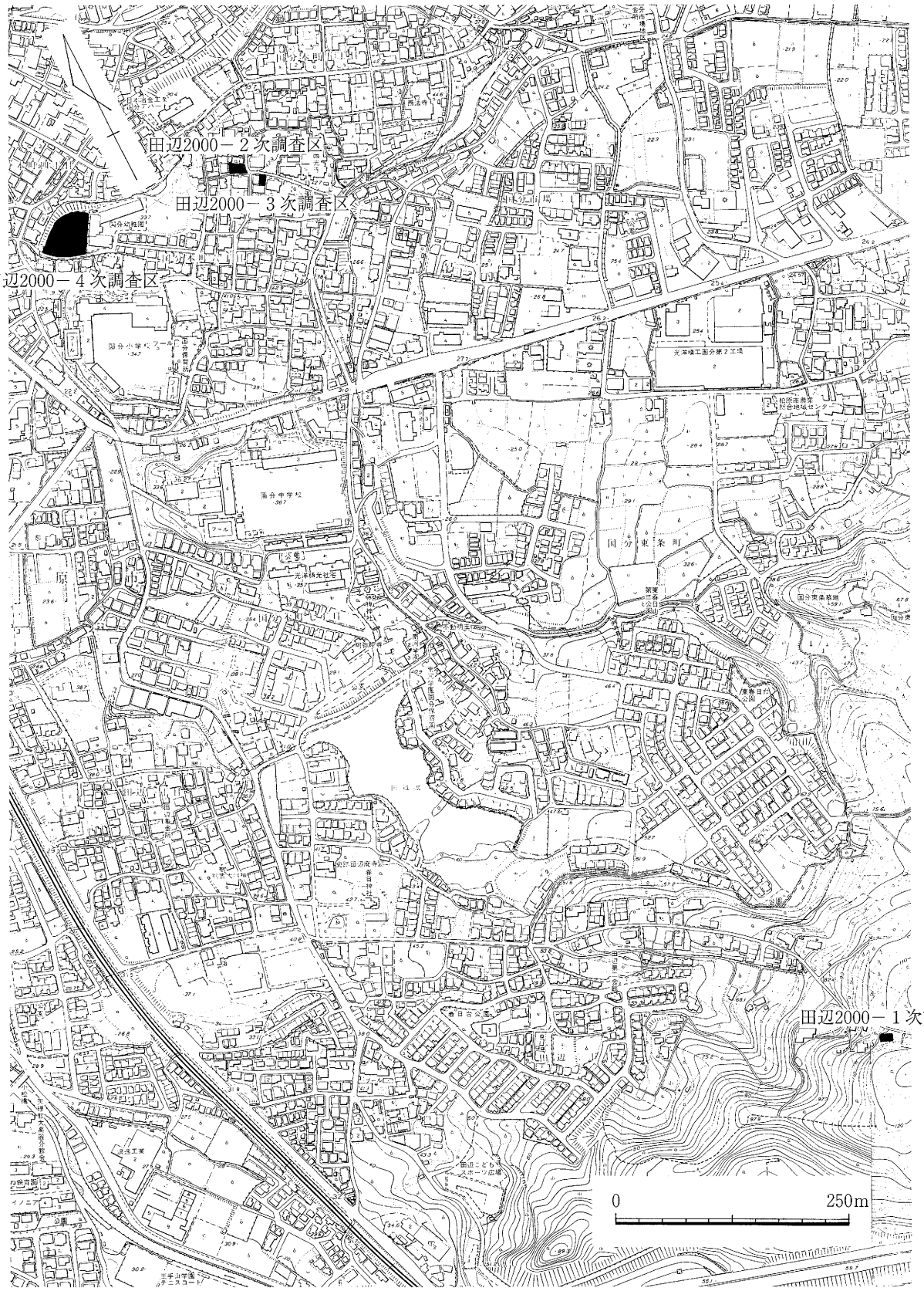


図－43　玉手山遺跡2000－３次調査調査区位置図



図－44　玉手山遺跡2000－３次調査平面図・断面図図

第７章　田辺遺跡



図－45　田辺遺跡調査対象地位置図

田辺遺跡2000－1次調査

・調査対象地　　国分本町6－801－7

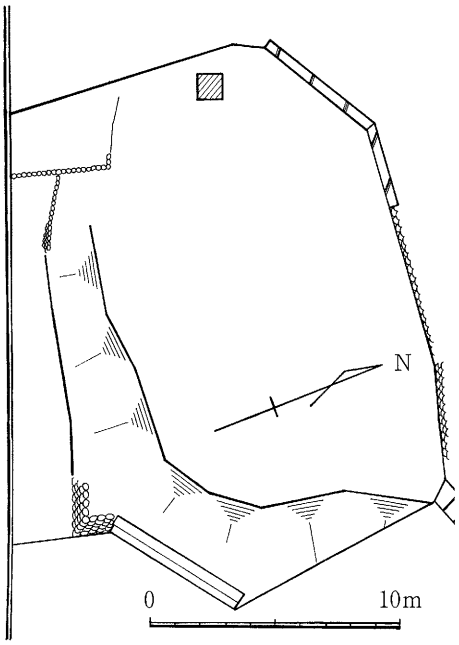
・調 査 期 間　　2000年1月20日

・調 査 面 積　　1.0m²/109.08m²

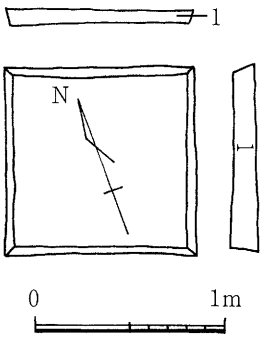
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、田辺遺跡の南東部で明神山系の丘陵頂部稜線近くの谷筋に平坦地を造成した場所である。標高は、約110mで直ぐ上方に田辺排水池がある。近隣の遺跡は、北側の丘陵裾部に田辺古墳群と丘陵の稜線を通り越してやや南傾する斜面地に横穴式石室を10基前後を擁する北峰古墳群がある。時期は古墳時代後期の古墳で同時期であるが、築造された位置に大きな違いが見られる。この二つの古墳群の被葬者は性格を異にする集団である。

当該地内に1.0×1.0mのトレンチを設定した。表土0.2mを掘り下げると直ぐ地山を確認した。地山は黄褐色砂礫土で礫は柔らかい石である。旧家屋の造成時に斜面を削平し平坦地にしたものであろう。遺構遺物は確認しなかった。



図－46　田辺遺跡2000－1次調査調査区位置図



図－47　田辺遺跡2000－1次調査平面図・断面図

田辺遺跡2000－２次調査

・調査対象地　　国分本町６－620－２

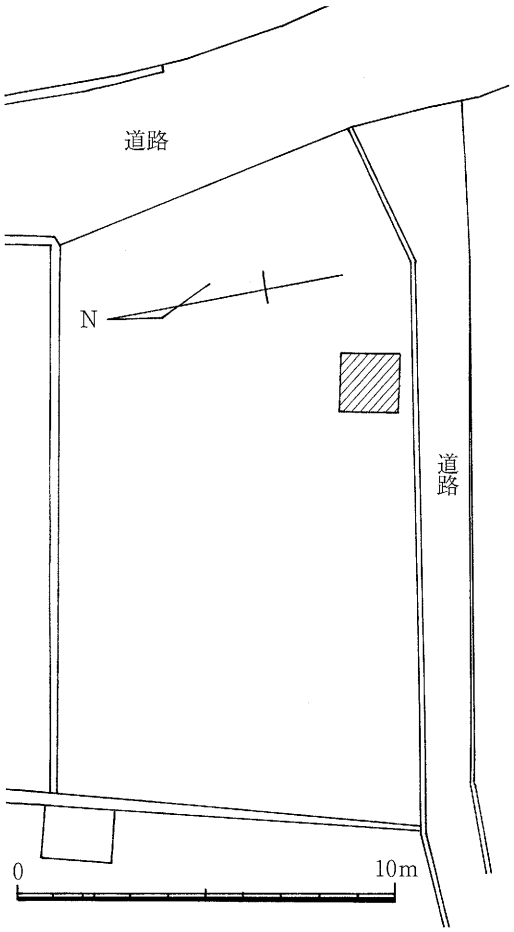
・調 査 期 間　　2000年２月21日

・調 査 面 積　　2.5m²/135.38m²

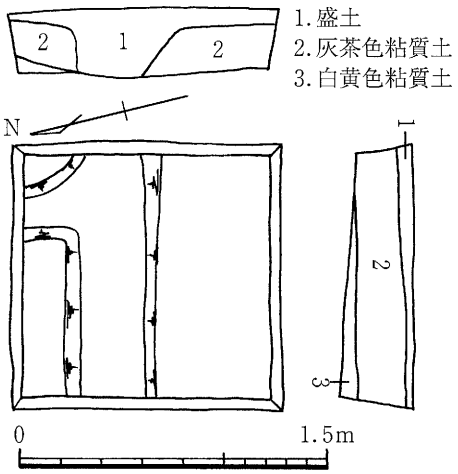
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、田辺遺跡の北側丘陵の北西端部にあり、西側へ傾斜している。この周辺は多くの調査事例があり、古墳時代中期から奈良時代までを中心とした遺構や遺物が出土し、中期頃の古墳が削平を受けた後集落が丘陵全体に広がっている状況が見られる。この地域は、史跡松岳山古墳が河内地域の最も有力な首長を埋葬した古墳があり、その後河内国分寺や国分尼寺、竹原井行宮など政治上の重要な河内の中心的な施設が密集している。

当該地内の南東部に1.3×1.7mのトレンチを設定した。北側及び西側には傾斜を持ち建物基礎によって影響を受ける場所はトレンチ周辺部と考えられ、約0.4mまで掘削した。埋土は、第１層は盛土で下層に砂礫土を含む溝があった。旧家屋の基礎部分であろう。第２層は灰茶色粘質土が約0.3mの厚さがあり、遺物は含まれないが近世の堆積土であろう。第３層は白黄色粘質土である。この土層は西方になるに従い厚くなっている。遺物はなく、粘土に近い土層である。



図－48　田辺遺跡2000－２次調査調査区位置図



図－49　田辺遺跡2000－２次調査平面図・断面図

田辺遺跡2000－３次調査

・調査対象地　　国分本町６－1464－５

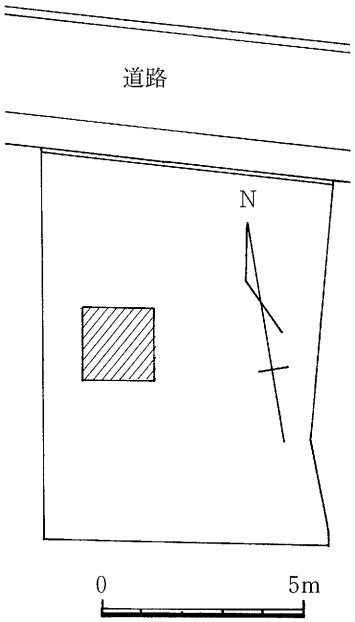
・調 査 期 間　　2000年５月22日

・調 査 面 積　　3.2㎡/65.95㎡

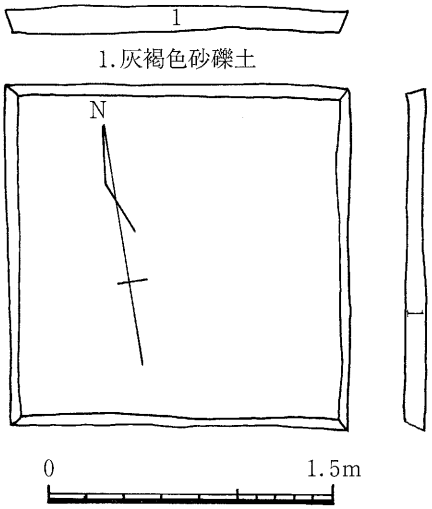
・調査担当者　　北野　重

当調査区は、田辺遺跡の北側丘陵部の中央にあり、ほぼ平坦地であるが緩く西傾している。住宅が建ち並び旧地形の復元は困難である。周辺部の既往の調査は、古墳時代中期から後期の埴輪の出土や土器、奈良時代の集落関連遺構や遺物が出土している。直ぐ南側の国分小学校や国分中学校内の調査は、古墳時代後期から奈良時代にかけての大規模な鍛冶や青銅製品の工房跡が検出されており、鉄滓、鞴羽口、砥石、鋳型や溶解炉の炉壁、銅滓、青銅素材など注目される遺物が多く見られ、その内容が官営的な性格を帯び有力な大豪族によって運営された金属器生産工房と考えられる。

当該地内のほぼ中央部に1.7×1.8mのトレンチを設定した。上層の約0.1mを掘り下げると地山であった。遺構、遺物は検出しなかった。調査区の西隣地の調査は、土坑状の落ち込みを検出し、近世の鉢が出土している。土坑状の落ち込みは当調査区まで続いていないことを確認した。



図－50　田辺遺跡2000－３次調査調査区位置図



図－51　田辺遺跡2000－３次調査平面図・断面図

田辺遺跡2000－４次調査

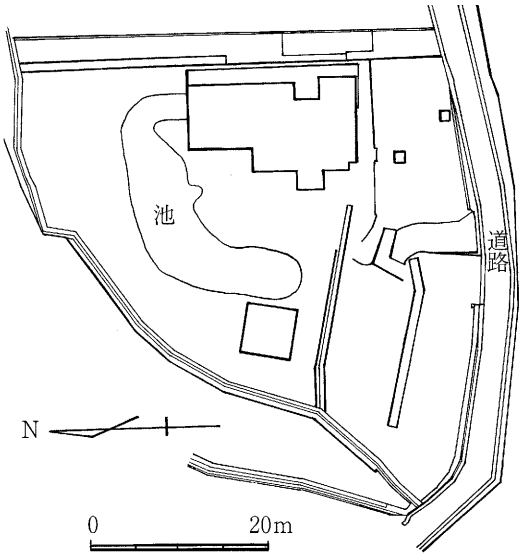
・調査対象地　　国分本町６－641－２他４筆

・調 査 期 間　　2000年12月14日～12月15日

・調 査 面 積　　2.4㎡/1710.36㎡

・調査担当者　　北野　重

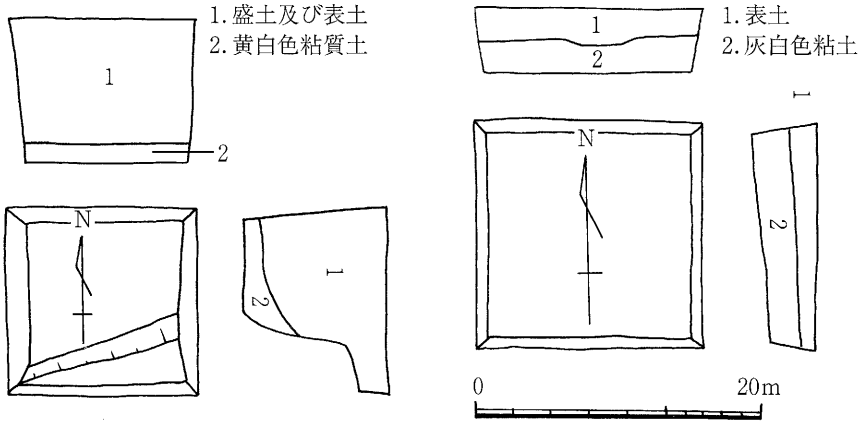
当調査区は、田辺遺跡の北側丘陵の西方丘陵端部にあたる。直ぐ西側の丘陵上には古墳時代後期の鍛冶関係遺物が出土し、遺物量が少ないが工房が営まれたことが判明している。国分小学校や国分中学校から検出されている工房は、古墳時代後期の畿内最大規模があり、鉄滓も総量1.5tを測り、生産された鉄製品の供給数量の多さを物語っている。田辺遺跡の大規模な工房の位置する場所は、現在までに２ヶ所を確認し、その稼動を能率的に行うため、廃棄遺物を溝や斜面縁辺部を選地している。田辺遺跡全体で100年間の稼動期間がある。



図－52　田辺遺跡2000－４次調査調査区位置図

当該地内の建物建設予定地に1.0×1.0mと1.2×1.2mの２つのトレンチを設定した。

第１トレンチは、南東部に深さ0.7mまで掘削した。後世の新しい土坑があり、南側から北側へ落ち込み深さ約0.7mで平坦になっている。遺構や遺物は出土しなかった。土層は、第１層盛土と表土があり、第２層は黄白色粘質土である。地山は黄白色粘土である。



図－52　田辺遺跡2000－４次調査平面図・断面図

第２トレンチは、第１トレンチの北西部に設定した。地表下0.3mまで掘削した。第１層は、表土で0.1～0.2mの厚さがあり、下層の白灰色粘土は地山である。このトレンチも遺構、遺物は出土しなかった。

報　告　書　抄　録

ふりがな	かしわらしまいぞうぶんかざいちょうさがいほう
書名	柏原市埋蔵文化財発掘調査概報2000年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	柏原市文化財概報
シリーズ番号	２０００－Ⅰ
編著者名	北野　重
編集機関	柏原市教育委員会
所在地	〒582－8555　大阪府柏原市安堂町１番43号　　TEL　0729－72－1501
発行年月日	2001年03月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
船橋遺跡	大阪府柏原市 古町３丁目	27221	ＦＮ 2000-1	34度 34分 50秒	135度 37分 30秒	2000.01.28	2.20	個人住宅建設
船橋遺跡	古町３丁目	27221	ＦＮ 2000-4	34度 34分 55秒	135度 37分 30秒	2000.06.01	1.60	個人住宅建設
船橋遺跡	古町３丁目	27221	ＦＮ 2000-5	34度 34分 45秒	135度 37分 45秒	2000.07.03	3.70	個人住宅建設
山ノ井遺跡	山ノ井町	27221	ＹＩ 2000-1	34度 35分 45秒	135度 38分 20秒	2000.01.05	2.50	個人住宅建設
山ノ井遺跡	山ノ井町	27221	ＹＩ 2000-2	34度 35分 45秒	135度 38分 25秒	2000.10.10	1.90	個人住宅建設
平野遺跡	平野２丁目	27221	ＨＮ 2000-1	34度 35分 40秒	135度 38分 20秒	2000.08.22	2.20	個人住宅建設
平野廃寺	平野１丁目	27221	ＨＮＴ 2000-1	34度 35分 30秒	135度 38分 25秒	2000.08.10 ～ 2000.08.11	3.70	個人住宅建設
大県遺跡	平野２丁目	27221	ＯＧ 2000-1	34度 35分 30秒	135度 38分 13秒	2000.03.01	2.20	個人住宅建設
大県遺跡	平野２丁目	27221	ＯＧ 2000-3	34度 35分 25秒	135度 38分 25秒	2000.05.01	2.20	個人住宅建設

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
おおがたいせき 大県遺跡	おおさかふかしわらし 大阪府柏原市 ひらのちょうめ 平野2丁目	27221	ＯＧ 2000-4	34度 35分 25秒	135度 38分 25秒	2000.05.01	2.20	個人住宅建設
おおがたみなみいせき 大県南遺跡	おおがたちょうめ 大県4丁目	27221	ＯＧＭ 2000-3	34度 35分 15秒	135度 38分 25秒	2000.06.12	1.80	個人住宅建設
たいへいじいせき 太平寺遺跡	たいへいじちょうめ 太平寺2丁目	27221		34度 34分 45秒	135度 38分 20秒	2000.03.09 ～ 2000.10.24	10.2	個人住宅建設
ひらおやまこふんぐん 平尾山古墳群	かりんどばた 雁多尾畑	27221	ＨＹＫ 2000-2	34度 34分 20秒	135度 40分 8秒	2000.10.24	2.20	個人住宅建設
とっとりせんげんいせき 鳥取千軒遺跡	あおたに 青谷	27221	ＴＴ 2000-1	34度 34分 15秒	135度 40分 5秒	2000.05.30	2.20	個人住宅建設
たまてやまいせき 玉手山遺跡	あさひおかちょうめ 旭ケ丘1丁目	27221	ＴＹ 2000-1	34度 33分 35秒	135度 38分 20秒	2000.05.10	1.80	個人住宅建設
たまてやまいせき 玉手山遺跡	たなべちょうめ 田辺2丁目	27221	ＴＹ 2000-2	34度 33分 40秒	135度 38分 25秒	2000.05.18	3.20	個人住宅建設
たまてやまいせき 玉手山遺跡	かりんどばた 雁多尾畑	27221	ＴＹ 2000-3	34度 33分 40秒	135度 38分 20秒	2000.08.17	1.90	個人住宅建設
たなべいせき 田辺遺跡	たなべちょうめ 田辺2丁目	27221	ＴＢ 2000-1	34度 33分 25秒	135度 39分 15秒	2000.01.20	1.00	個人住宅建設
たなべいせき 田辺遺跡	こくぶほんまちちょうめ 国分本町6丁目	27221	ＴＢ 2000-2	34度 33分 55秒	135度 38分 50秒	2000.02.21	2.50	個人住宅建設
たなべいせき 田辺遺跡	こくぶほんまちちょうめ 国分本町6丁目	27221	ＴＢ 2000-3	34度 33分 55秒	135度 38分 50秒	2000.05.22	3.20	個人住宅建設
たなべいせき 田辺遺跡	こくぶほんまちちょうめ 国分本町6丁目	27221	ＴＢ 2000-4	34度 33分 50秒	135度 38分 40秒	2000.12.14 ～ 2000.12.15	2.40	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平尾山古墳群	集落	古墳時代	ピット	土師器、須恵器物	
大県南遺跡	集落	飛鳥時代	なし	土師器、須恵器、石鏃	
太平寺遺跡	集落	奈良時代		瓦	

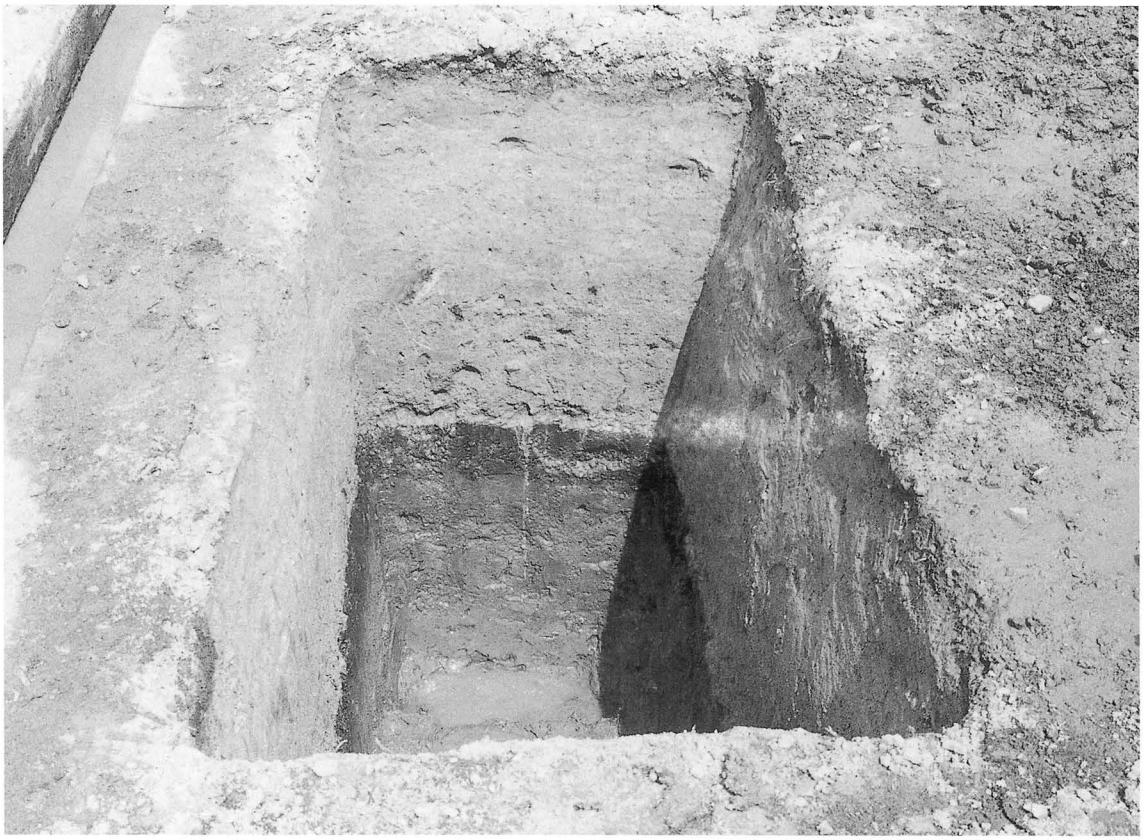
図　　版

図版一　船橋遺跡２０００—２次調査

全景

土層断面

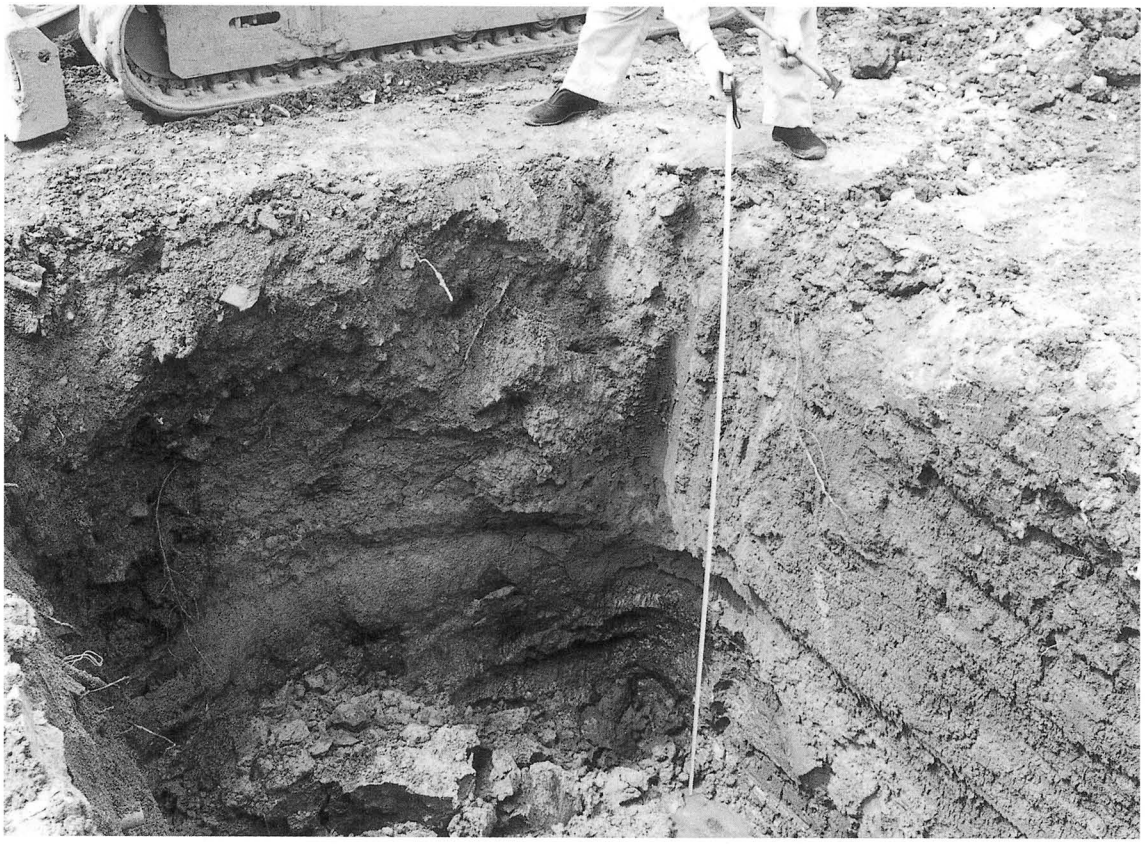
図版二　船橋遺跡２０００—４次調査



全景

土層断面

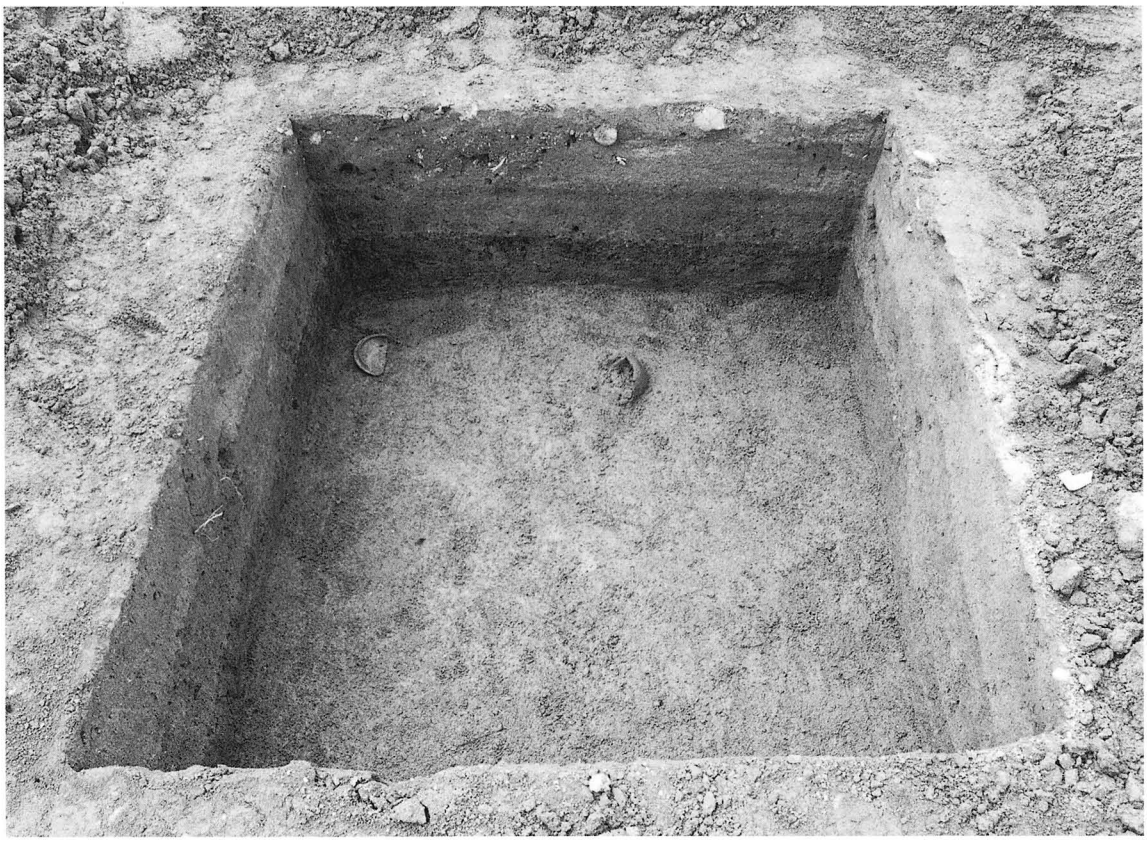
図版三　船橋遺跡２０００—５次調査



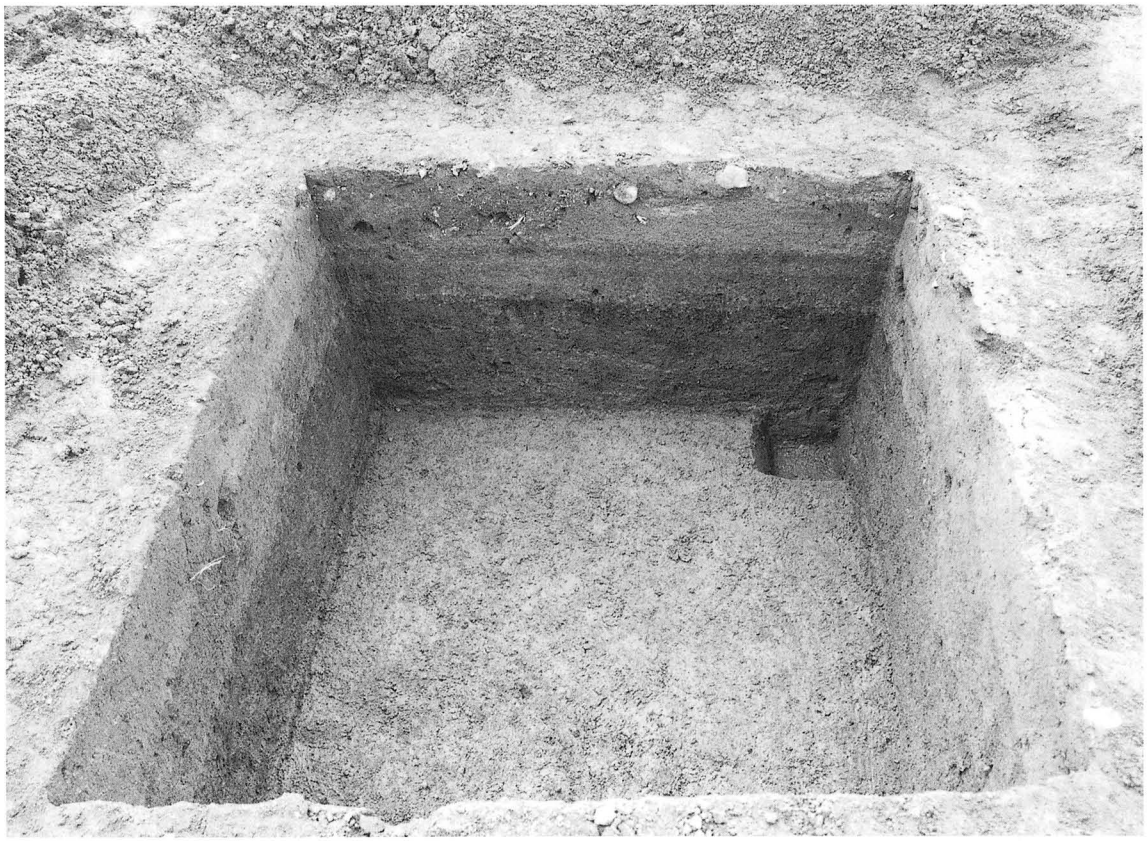
土層断面

土層断面

図版四　山ノ井遺跡２０００—１次調査



全景



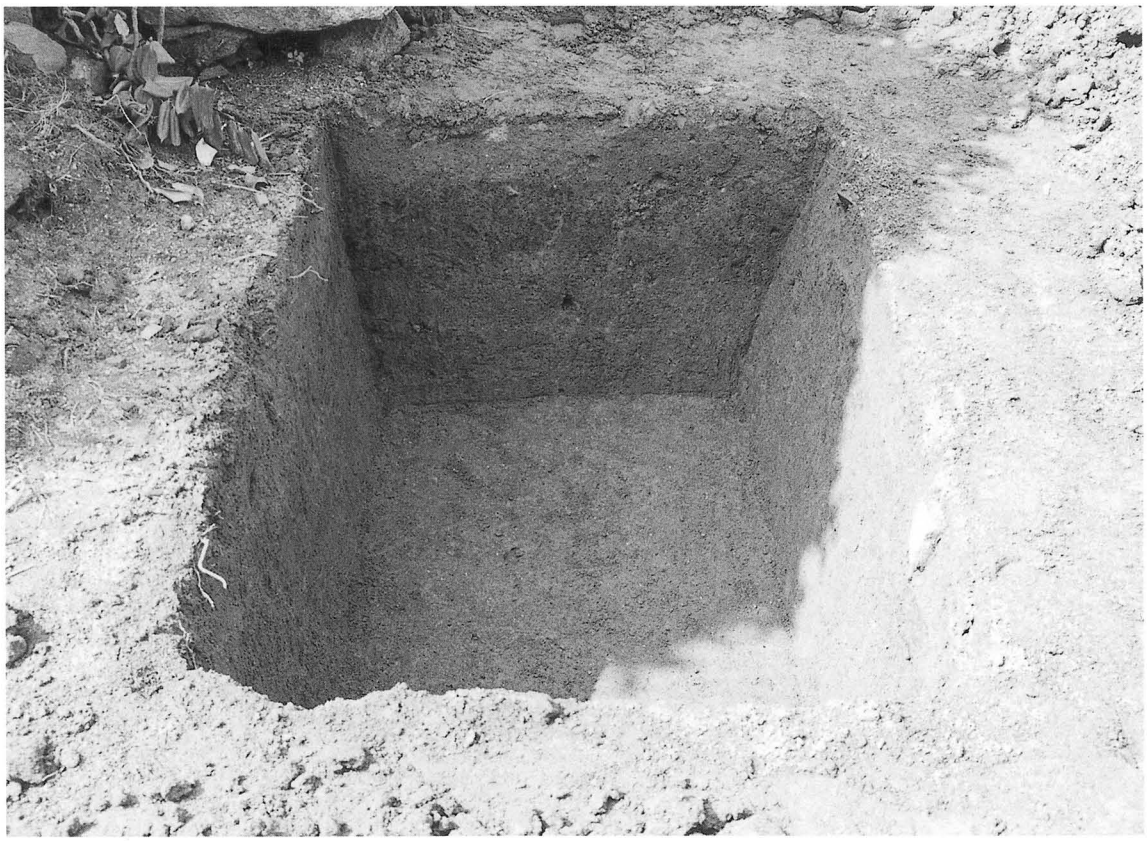
全景

図版五　山ノ井遺跡２０００—１次調査

遺物出土状況

出土遺物

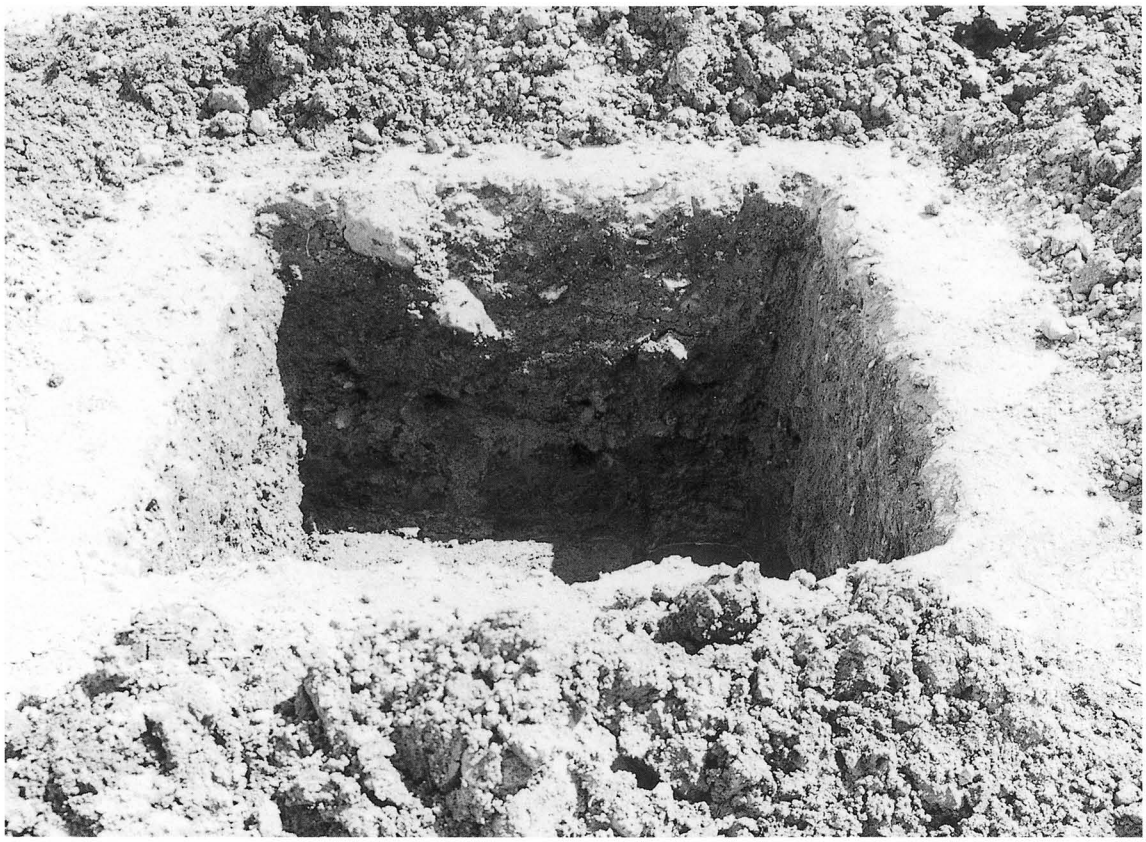
図版六　山ノ井遺跡２０００—２次調査



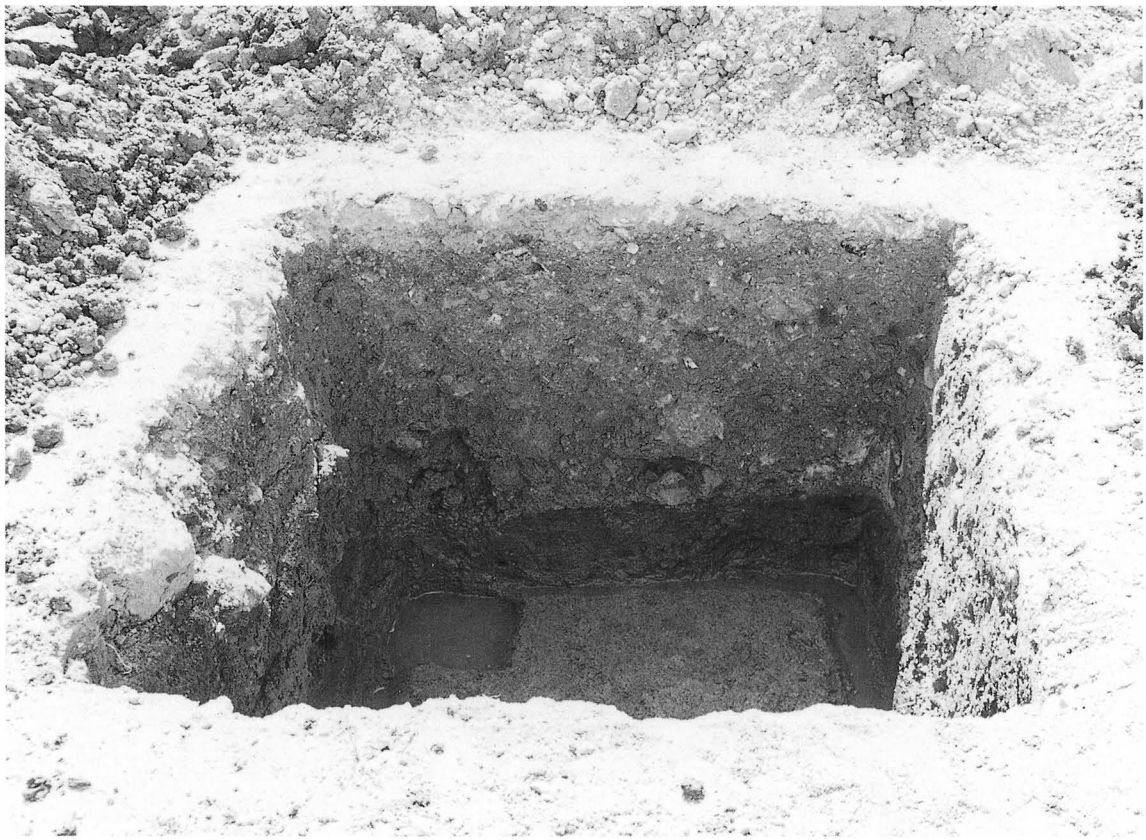
全景

全景

図版七　平野遺跡２０００—１次調査

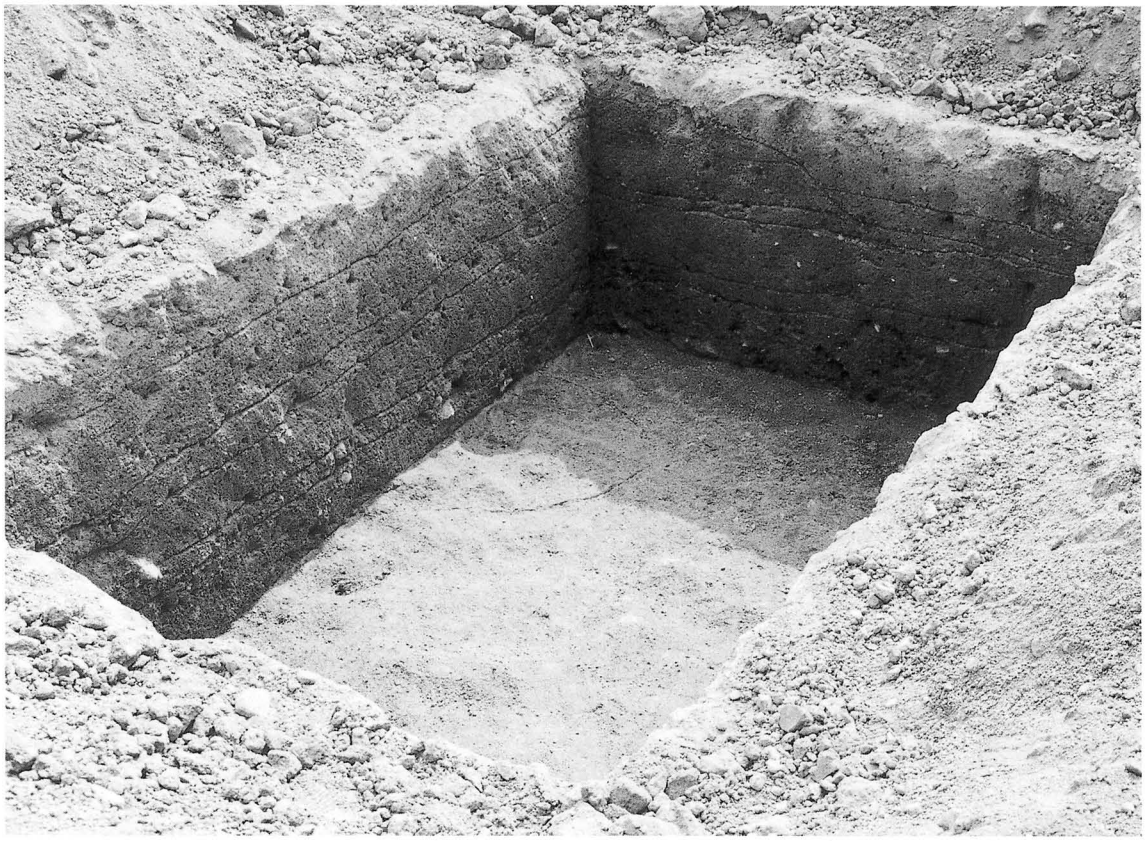


全景

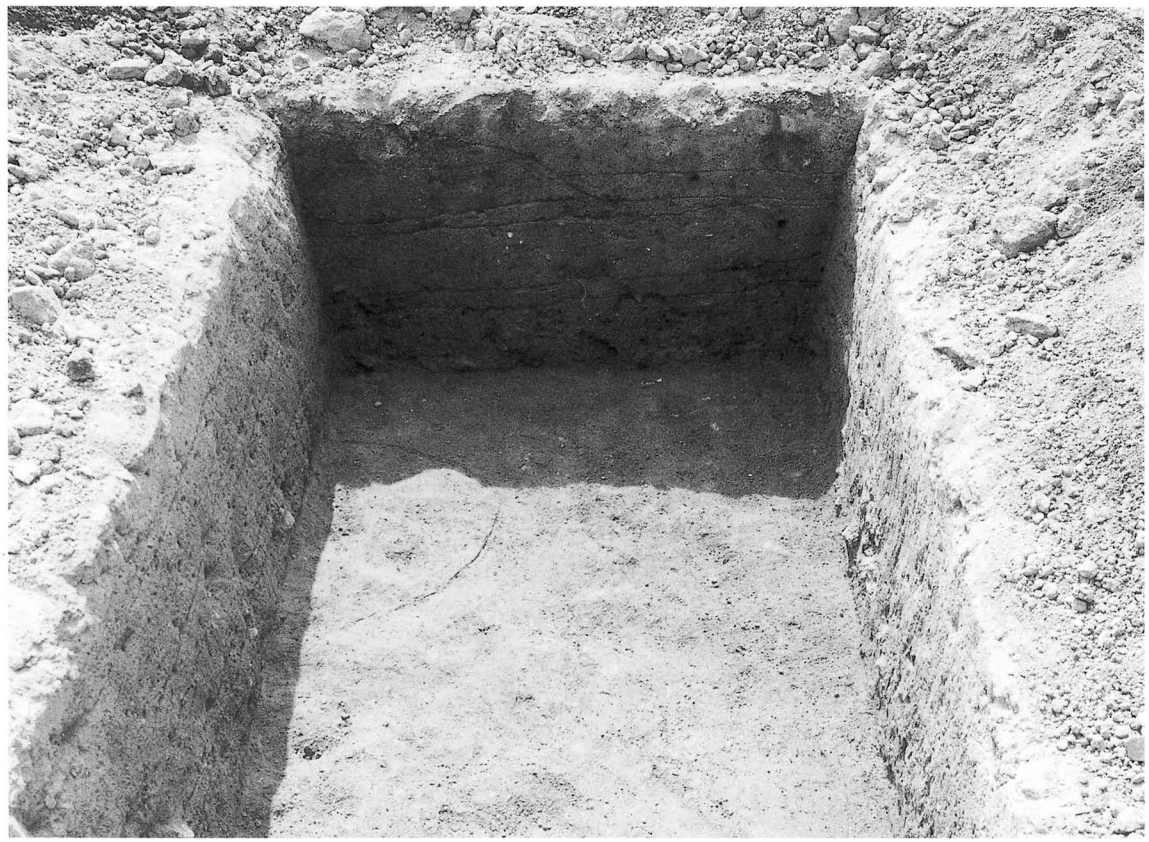


土層断面

図版八　平野廃寺２０００—１次調査



全景



土層断面

図版九　大県遺跡２０００—１次調査

全景

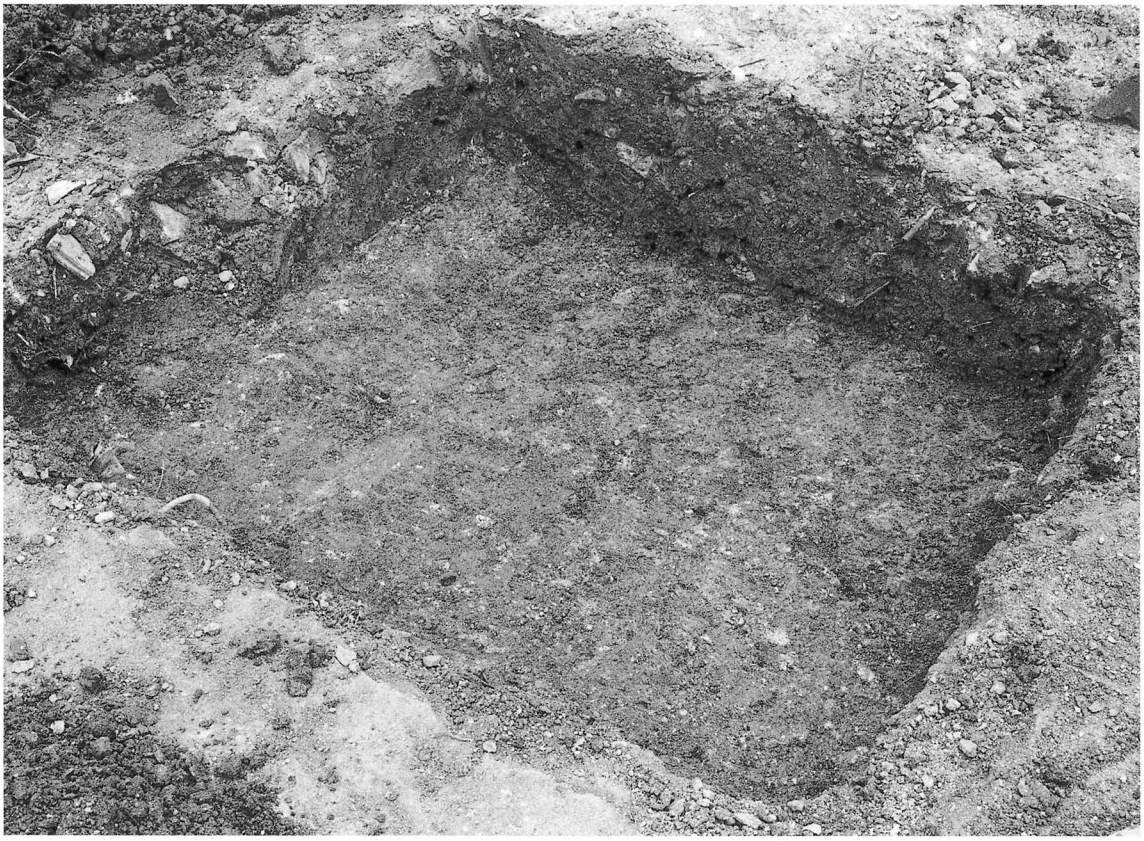
土層断面

図版一〇　大県遺跡20000—3次調査

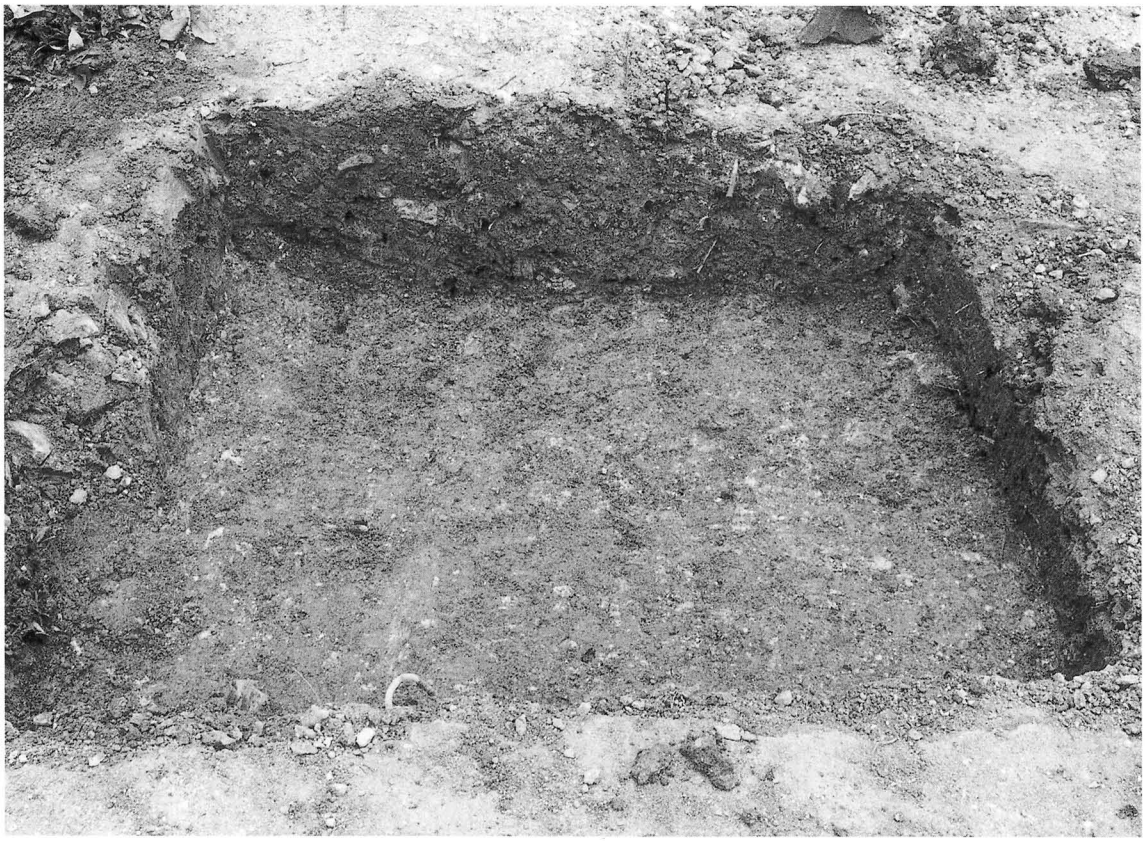
全景

全景

図版一一　大県遺跡２０００—４次調査



全景



全景

図版一二　大県南遺跡２０００—３次調査

全景

全景

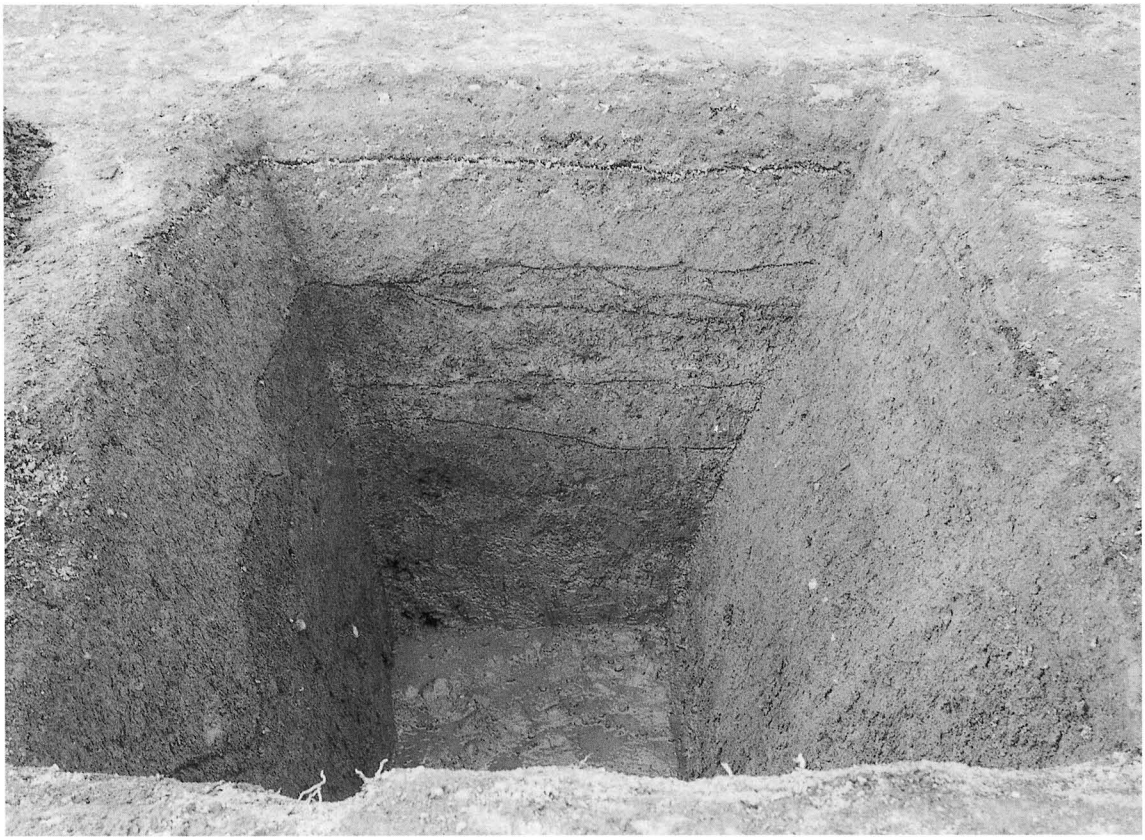
図版一三　大県南遺跡２０００—３次調査

遺物出土状況

出土遺物

図版一四　太平寺遺跡２０００—１次調査

第１トレンチ



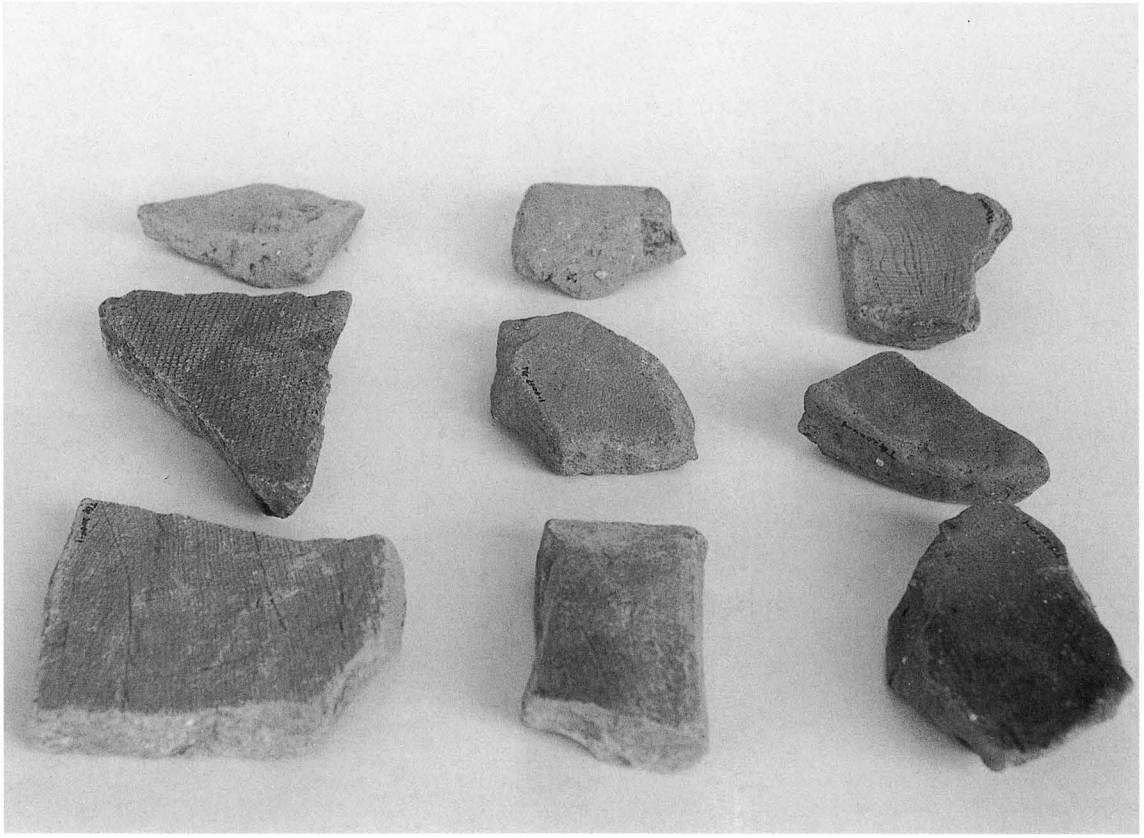
第１トレンチ

図版一五　太平寺遺跡２０００—１次調査

第２トレンチ

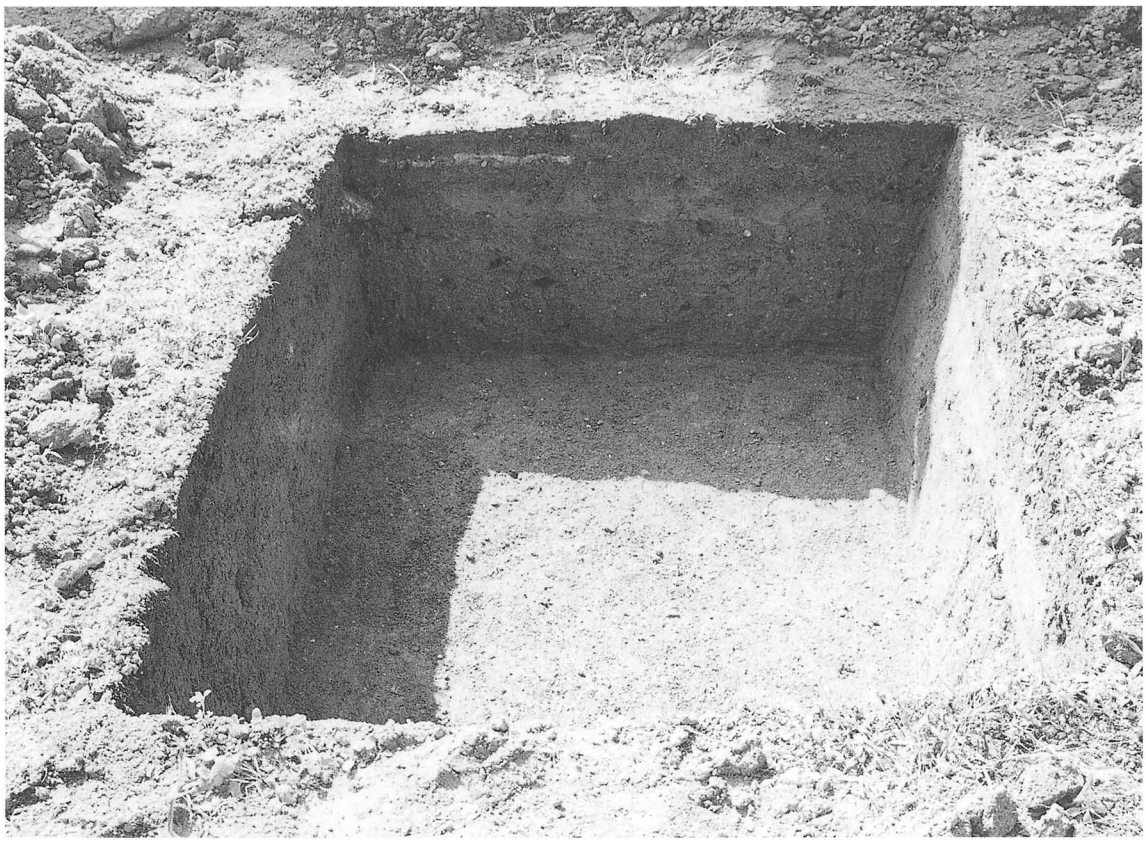
第２トレンチ

出土遺物

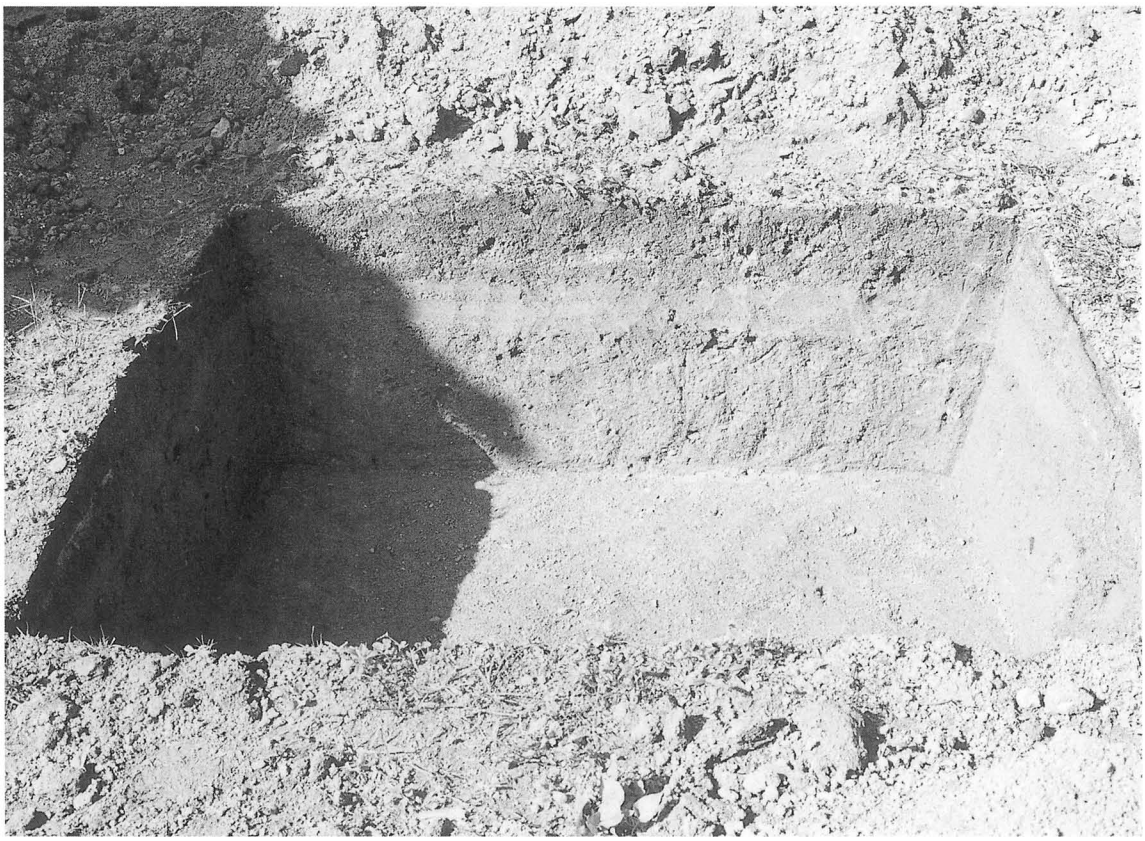


出土遺物

図版一七　平尾山古墳群２０００—２次調査



全景



全景

図版一八　鳥取千軒遺跡２０００—１次調査

全景

全景

図版一九　玉手山遺跡２０００—１次調査

全景

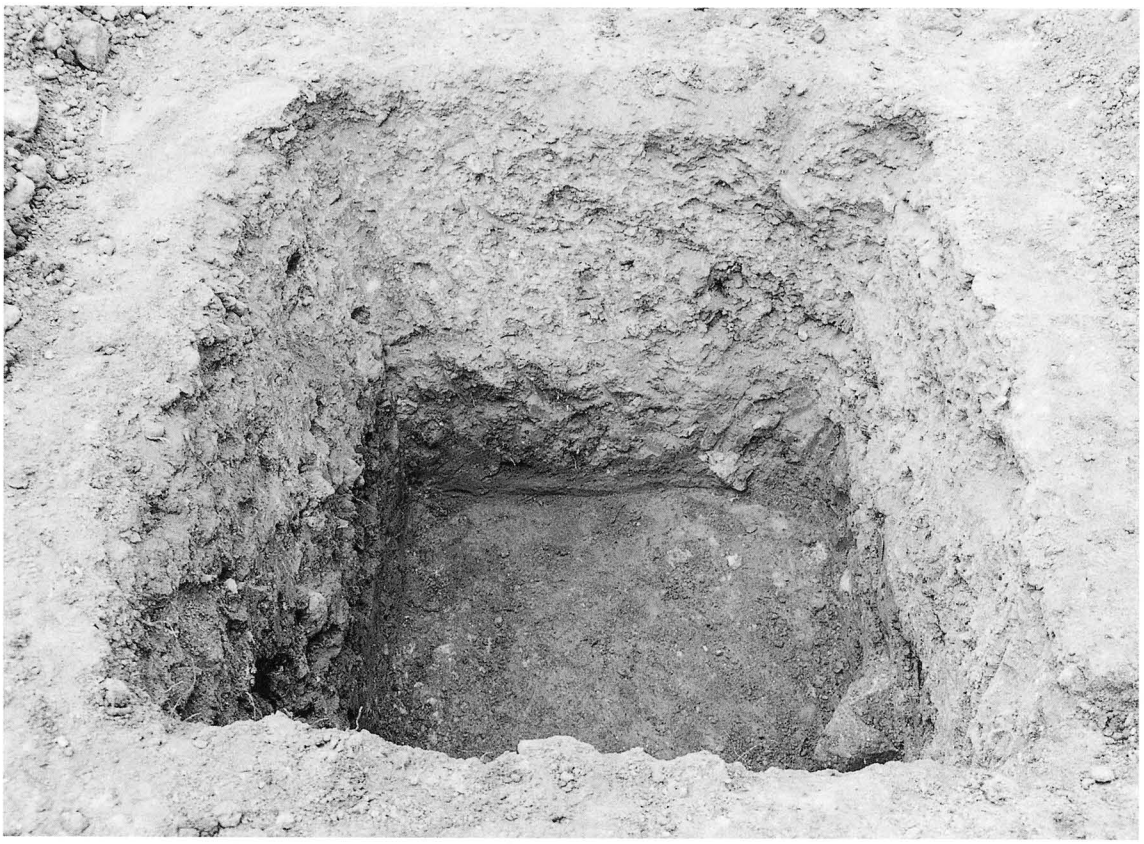
全景

図版二〇　玉手山遺跡２０００—２次調査

全景

全景

図版二一　玉手山遺跡２０００—３次調査



全景

土層断面

図版二二　田辺遺跡２０００—１次調査

全景

全景

図版二三　田辺遺跡２０００—２次調査

全景

全景

図版二四　田辺遺跡２０００—３次調査

全景

全景

図版二五　田辺遺跡２０００—４次調査

第１トレンチ

第２トレンチ

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

２０００年度

編集・発行　柏原市教育委員会
〒582-8555　大阪府柏原市安堂町1番43号
電話(0729)72－1501内線5133
発行年月日　平成13年３月31日
印　　刷　㈱近畿印刷センター